2面　尾形文学研究科委員長は語る
3面　博物館「南極、自然と人」企画展
4面　私の挑戦ー学生仲間で清掃活動
6面　就活を始める学生へ
16面　立正見聞ー夢をカタチにー

立正大學學園新聞

発行者　立正大学学園
〒141-8602
東京都品川区大崎4-2-16
発行人　渡邉　一之
編集　立正大学総務課新聞編集係
編集責任者　大津　悦夫
電話　03（3492）2681
FAX　03（5487）3338
ホームページ　http://www.ris.ac.jp/

合唱のアーチ輝いて

㊤立正大学グリークラブと額田中学の生徒が笑顔でハーモニー㊦中学生を指導するグリークラブのメンバー

連続日本一のグリークラブ
愛知の中学生が指導受けに来校

5月14日、愛知県額田町立額田中学校の生徒31人が、修学旅行の途次、立正大学のグリークラブを訪問した。

額田中学は、全校で合唱に力を注いできた伝統を持っている。全日本合唱コンクールで3年連続金賞を受賞している本学グリークラブの指導を受けて、合唱に対する意識を高めることを目的に大崎キャンパスに来校した。

「大地賛頌」を課題曲に阿部友音さん（心理3年）が講師となり、他の部員も生徒の輪に入って、ひとりひとりを指導した。

最初は緊張気味の額田中学3年1組の生徒たちだったが、本格的な発声練習やパート指導を受け、自分たちの歌声が変化していく過程を驚きとともに楽しんでいたようだ。

本学のスローガン「キミの夢にアーチをかけよう」が、合唱を通じて実現した一日だった。

大学院 心理学研究科
臨床心理士養成
第1種指定校に

大学院心理学研究科が、臨床心理士養成の第1種指定校に認定された。

4月5日「立正大学文学研究科哲学専攻・臨床心理学コース」及びその分離発展により開設されたばかりの「心理学研究科臨床心理学専攻」は、財団法人日本臨床心理士資格認定協会により臨床心理士養成の第1種指定校に認定された。

指定校には第1種と第2種があり、第1種は大学院修士課程修了後、実務経験なしに認定協会の臨床心理士資格試験を受験することができる。臨床心理士養成の最短コースである。

認定を受ける条件については、臨床心理士資格をもつ専任教員数、多様な臨床心理専門科目のカリキュラム設定、カウンセリングや心理テストなどの実習の充実、実習拠点としての「心理臨床センター」の設置、医療、教育、福祉関連機関などの学外実習施設の確保など、多くの課題があった。

中でも臨床心理士養成に特化したカリキュラムの確立、大学院研究指導への臨床心理実務経験者活用など、従来の学内のしくみとは必ずしも一致しない面の解決については、関係者の理解と協力によるところが大きかったという。

臨床心理士とは文部科学省認可の（財）日本臨床心理士資格認定協会により認定される民間資格である。

臨床心理学を基礎として人々のこころの問題の解決をはかるため、心理的援助を行う専門的職種であり、スクールカウンセラー、病院、児童相談所、被害者支援、企業カウンセラーなど様々な場で活躍している。

資格を持つ者は現在全国で約1万人といわれ、心理職の中では最も条件が厳しいとされる。

認定協会からは「臨床心理学専攻として特化された大学院基本モデルの充実に一層努力してほしい」とのコメントがあり、今後「心理臨床センター」の改修拡充など、引き続き条件整備が必要である。

こころの時代といわれる現代、社会に役立つ実力ある臨床心理士の養成を目指す立正大学の人材育成教育が期待されている。

文学部80周年記念
10月に公開講座

「受け継ぐ―音の力・声の力」テーマに

この秋、文学部80周年を記念して『受け継ぐ―音の力・声の力―』を基調テーマに公開講座を石橋湛山記念講堂で開催する。

内容、日程次のとおり。

▼10月2日（土）「メディアのコミュニケーション術―声の英知―」講師・西田善夫氏（スポーツアナリスト）▼10月6日（水）「朗読―声の文学―」講師・幸田弘子氏▼10月16日（土）「雅楽―音で伝える調和の精神―」講師・東儀俊美氏・十二音会▼10月22日（金）「狂言―純化される声と心―」出演・山本東次郎氏ほか▼10月30日（土）「声明とシンセサイザー―いざなう声と音の力―」出演・合川天心氏・矢吹紫帆氏ほか

開演時間は土曜日16時、平日は19時より。

申し込み等詳細は文学部事務室まで。☎03―3492―8791

（左から）感謝状授与式のあと、記念撮影する加藤副学長、金濱君、高橋君、遠山君、川村署長

障害者が線路に！
立正大生3人 勇気ある救助

4月25日午後9時半頃、東京の東急田園都市線二子玉川駅で、目に障害を持つ男性がホームから線路に転落、その場にいた立正大生3人が協力して救助した。

5月6日、玉川消防署の川村雅博署長が大崎キャンパスを訪れ、加藤吉則副学長立ち会いのもと感謝状を授与した。

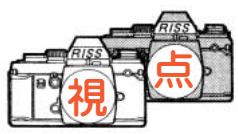
表彰された高橋真堂君（仏教学部4年）、金濱雅一君（経済学部3年）、遠山紘太君（経営学部3年）は、熊谷キャンパスでの郵政会入会式の帰宅途中で、転落した人を見て瞬間的に「助けなければ」と思い、無我夢中で行動したとのこと。

川村署長は「とっさに起こる事故に対して人間は躊躇してしまうことが多い。3人の迅速な行動で人の命が助けられ、2次災害も発生しなかった」と感謝の言葉を述べた。

2005受験ガイド

受験生対象の大学案内「ARCH」（アーチ）をご希望の方は、入試センターまでお申し込み下さい。（送料共無料）

入試センター
〒141-8602　品川区大崎4－2－16
TEL　03（3492）6649（直通）
http://www.ris.ac.jp
exa@ris.ac.jp



新聞を編集する任を負って改めて日本語とその表記について考えてみた▼日本語は難しいということである。その一因に漢字を介した意味の理解があげられる。多くの日本人が、会話の場面では発話されることばをその文脈に応じて、漢字の助けもえて意味を理解しているに違いない。同音異義語や同訓異義語の適切な処理が必要な場合もあろう。かつて、ワープロ専用機が開発され始めた頃に、あるメーカーの宣伝コピーに「きしゃのきしゃがきしゃできしゃした。」という一文を一回で間違いなく、「貴社の記者が汽車で帰社した」と変換できるというのがあった▼このコピー通りであったかどうかは確かめていないが、会話の場合、一瞬の間に適切に処理できなければ、意思の伝達が不可能になってしまう▼漢字で表記すると、類似していながら意味の異なることばが多くあることも、日本語を難しくしている一因である。たとえば、「自学」と「独学」、「自力」と「独力」の意味の違いである。これらはいずれも大野晋氏の『日本語練習帳』で、詳しい説明がなされている。「自」とは、自分から進んでということであり、「独」とは相手に制約されないという意味であるという▼こう説明されれば、意味の違いを納得できる。日本語の難しさを自覚し、意思の正確な伝達に努めていきたいと思う。

研究科委員長は語る〈8〉

文学研究科委員長　尾形　勇

皆さんの指導教員人一倍努力の人です

私ごとで恐縮ですが、今から40数年前、学部を卒業するに当たって私は四国の実家に帰り、「大学院に進んでもう少し勉強を続けたいが……」と、その時だけは、『たそがれ清兵衛』みたいな真面目な口調で、両親に苦労の延長を頼んだ、というより親に「引導を渡した」ものです。

そのころは中国との国交が回復しておらず、中国なんぞは流行ってない時期でしたので、とくに私が専攻した「東洋史（中国史）」の分野なんかでは、大学院を出ても、学者になることは無理としても、専門を生かせる何らかの職業につくことも、実際には難しかったからです。

両親には、本当のところ「大学院」というものが、よくわからなかったのが幸いしたのでしょう、許しを得ることが出来ました。

私の場合、やがて早めに国立大学助手の就職がみつかり、その頃は、春先には炭塵と馬糞の粉が舞うような札幌に赴任しました。その後転々としながらも、一応、大学の教員として〝飯を食って〟これました。ま、運がよかっただけです。

専攻分野によって事情はやや違うのですが、それでも大学院を卒業して、自分の修めた学問を生かした職業につくことは（どの大学でも事情は同じようですが）、とくに「学問の基礎」を担う研究科系の場合、むかし以上にキビシイようです。

先日、坂誥秀一元学長のお薦めで読んだ本、村上龍『13歳のハローワーク』（幻冬舎、2003年）の中で、「大学教授」の項を見てみますと、「道のりは長くなかなか難しい」、「真にその学問が好きでなければできない仕事」などと書いてありました。その通りでしょう。

ということは、道は長いけれども、学問が本当に好きであるかぎり、待ち構える様々な困難を乗り越えることができるはず――とも読み取れます。

それには、やっぱり、人一倍努力するより他に方法はないのです。……皆さんの指導教員は、それをやってこられたのですよ。

この人

もうひとつの『されどわれらが日々』

文学部社会学科助教授　友永（ともなが）　昌治（しょうじ）先生

友永氏とは大学同窓30年来の親友である。母校の上智大学数学科は1学年30余人。必修や専門の授業を4年間ほぼ同じ顔ぶれで学ぶため、同じ釜の飯を食ったという仲間意識が強い。

私が彼を知ったのは「人間学」という1年次必修科目においてである。その授業の初回、彼はいきなり登壇するや「カトリシズムを強要する授業を粉砕せよ」とアジり、それを口火に毎回誰かがアジる事態が続いた。

やがて大学側が鎮静化に乗り出し、結局、彼をはじめ何人かがその授業から去ることになる。そんな最中、授業を終え大学正門を抜けるや彼に出くわした。初めての対面である。

何気なく誘って上智の土手を歩きながら赤坂見附に向かった。言葉少なげな会話は、目下の問題でなく専ら数学のことばかりだった。1年の専門は解析学と線形代数が主だったが、彼は、より抽象的な位相空間論や群論を読み進めていた。

話は尽きず、その後も赤坂見附で飲み、語り合うことが常となる。

彼の活動は続き、それは3年のときに高揚する。当時上智では学費値上げ問題等が燻っていた。時の学長は数学科の故守屋美賀雄教授。対する大学学生自治会の主導権は彼を含む数学科3年が握っていた。

学内問題は数学科内に波及し、その年の後期試験になり、多くの受講者が答案を教員に手渡した。それは無言の静かな光景であったが、数学科の仲間意識がすれ違い、引き裂かれる無惨な情景でもあった。

憔悴した彼は「現実がどうあれ、常に同じ表情で迎え容れてくれる数学の世界が私にあることは幸せである」と語り、私は同感した。

そうした学問の懐を感じつつ最終学年を迎える。彼曰く「鳳仙花が弾けるよう、それぞれが改めて何かを探し始めた」。そして、彼は非可換環論を、私は可換環論を志す。制約の多い非可換環論が「制約の中に論理を見出す」彼の質に合ったのであろう。

彼との親交は今も続いているが、数学を前にしての我々は、時間・空間・状況・立場を超えて、大学時代の吾等が姿そのままである。

（地球環境科学部教授　山下倫範）

㊤母校上智大学で友永先生㊦昭和53年、赤坂見附で大学院時代の友永先生（左）と山下先生

生誕一二〇年を記念して

総理退任後の訪問

北尾　義昭

昭和32年1月17日、中高校庭での雨天の寒さの中で行われた石橋湛山先生総理大臣就任祝賀式、あの折の先生の姿は鮮明に記憶の中にある。

満場の聴衆は興奮状態で、壇上の先生は輝いて見えた。しかし、その先生は半月後に発病、2月25日には総理退任という歴史的事態に立ちいたられた。

学内の空気も一転、消沈の態で、ただひたすら病気平癒を祈り、再びの元気な姿を待望していた。

そんな中での昭和34年春浅き頃、秘書の中島氏から連絡が入った。写真撮影は結構ですよ、との朗報である。当時学内は、広報活動の改革を展開中で「拡大委員会」なる組織を設け学生募集に奔走していた。

広報の目玉として石橋学長の元気な姿をクローズアップして広告媒体に載せる企画を暖めていた。大学広告の写真といえば校舎が専らで、人物写真など希有の時代である。

好機到来とばかりに、広報課員であった私は勇躍し、学生数人を伴い撮影スタッフともども下落合のご自宅に伺った。書斎にサンルームにと場所を変え、さまざまなシーンの要望に快く応じていただいた。

先生のお体は、手足の不自由さはあったが、血色も良く穏やかなご様子であった。会話にも、軽やかに応じていただき、感激を新たにした。

振り返るに、昭和27年、さまざまな面で危機的状態を呈していた立正大学に、学長として就任された先生は、学内に新風をもたらされた。人事に、教育研究にと、改革を断行された。まさしく、それまでの大学を覚醒させるものであった。

今に謳われている「建学の精神」も、先生の主導で制定されたものであり、今に継承されている「立正文化講座」も先生自ら発議し率先躬行されたもの。

開校120周年事業の一環として建設した講堂に「石橋湛山記念講堂」の名を冠したのも、その功績の偉大さを顕彰し、渇仰の総意を後世にまで顕そうとするものであった。

石橋湛山先生こそ、まさに立正大学中興の祖であり、永遠のシンボルなのである。

（元常任理事）

石橋湛山先生の自宅サンルームで（右端は筆者）

まさに立正大学中興の祖

人事に教育研究に改革断行

45年前の筆者と石橋先生

日本学生相談学会大崎校舎で開く

日本学生相談学会第22回大会（準備委員長・松原達哉教授）が5月14日から3日間、立正大学大崎キャンパスで開催された。

学会には大学など高等教育機関の学生相談室、保健管理センターに関係する大学カウンセラー410大学451人が参加した。

学会ワークショップは品川区立総合区民会館で開かれ、中国学生相談学会の樊会長が「中国の学生相談における現状と問題点」と題して国際記念講演を行った。

また、上里一郎・広島国際大学学長による講演のほか、大会シンポジウム「大学改革と学生相談を考える」、研究発表など、新しい知見の導入や工夫などをめぐって交流が行われた。

中国の会長一行が表敬

日本学生相談学会第22回大会に出席するため来日した中国学生相談学会の樊富珉会長（清華大学教授）、郑日昌副会長ら5人の教授陣は5月15日、高村学長を表敬訪問した＝写真。

急激な近代化が進む中国において心理学は重要な研究分野となっている。今回の学会参加を機に、意欲的に本学の施設や運営について視察された。また、学長と樊会長は大学でのカウンセリングの重要性や今後の課題などを話し合った。

大学院地球環境科学研究科と埼玉県農林総合研究センター
連携大学院で協定

人の交流や共同研究
高度技術者養成を実践へ

3月29日、立正大学大学院地球環境科学研究科と埼玉県農林総合研究センター（以下農総研）は、人の交流や共同研究を推進するため、上田清司知事と吉田榮夫・前立正大学長との間で連携大学院の協定、高村弘毅地球環境科学研究科委員長（当時）と星野榮太郎農林総合研究センター所長との間で具体的な運用に関する「覚書」を締結した。

両機関はこれまで、けやき広場の植栽による環境改善効果の解明、農薬の水系汚染の藻類による影響の解明、住民参加による農業用水路の生物多様性保全管理システムの開発、荒川流域の水辺林資源とその周辺の土地利用に関する研究を共同で実施してきており、両者が連携することで、単独の機関ではできないような研究を共同で進めていくなどの利点を見込んでいる。

立正大学からは農総研に大学院生を受け入れてもらい、センター専門の研究員が客員教授として院生を指導する。農総研は大学のノウハウや、研究所が保有していない施設の利用などで共同することになる。

共同研究の中から社会人ドクターが輩出できれば、平成13年より開始し、現在進行中のオープンリサーチセンター整備事業（文部科学省補助事業、15年度補助金5820万円）にうたわれている、高度技術者養成の実践にも繋がるものと期待される。

協定締結に立ち会った（左から）高村弘毅現学長、上田清司埼玉県知事、吉田榮夫前学長。右の写真は協定書

吉田前学長が資料を博物館に
「南極、自然と人」企画展
先生撮影の「タロとジロ」なども

立正大学博物館では、4月12日（月）～5月11日（火）まで、第2回企画展『南極、自然と人―南極観測の記録から―』を、国立極地研究所・（財）日本極地研究振興会協力のもと開催しました。

南極の氷を説明する吉田先生

この企画展は、前学長である吉田榮夫先生から、南極関係の資料を博物館に寄贈していただくことになり、企画したものです。

主な展示品としては、ペンギンやオーロラなどの南極の自然や、南極観測船、調査風景など、南極観測に関わった人達の姿などが写真で展示されています。

中には、映画でも有名になった犬のタロとジロの写真などもありました。驚くべきことに、そのほとんどは、先生ご本人が撮影したものだそうです。

今回の展示品のメインは、吉田先生のご尽力でお借りできた南極採取の隕石でした。めったに見ることのできない隕石に見学者は、足を止めていました。

その他、貴重な南極の岩石や吉田先生が調査し関わった地図、先生がお持ちの切手などを展示しました。

なお、5月8日（土）には、吉田先生に「南極に魅せられて半世紀」という題で、講演していただきました。

吉田先生は、1957年の第2次日本南極観測隊の観測隊員をはじめとして、観測隊隊長や越冬隊長などを歴任され、南極観測に大きく貢献されてきました。

当日は、天気にも恵まれ、学生以外にも卒業生や教員など、多くの人がご講演を聞きに集まりました。

先生は、スライド等を使用し、南極の自然のすばらしさ、また厳しさについてお話されました。

先生がなぜ南極に魅せられるのか少しわかったような気がしました。

講演の最後の部分では、本物の南極の氷を取り出し、説明してくださいました。この氷は、講演のために先生が用意されたものです。

講演会の終わりには、地球環境科学部長澤田裕之氏より、立正大学での先生の功績が紹介され、学生から花束が贈呈されました。今回の企画展は吉田先生なしには始まらないものでした。先生に心から感謝したいと思います。

（立正大学博物館学芸員　上野　恵司）

元気な姿を見せるタロ（左）とジロ（右）

愛嬌者のペンギンも怒ると…

美しいオーロラ＝「タロとジロ」以外の写真は吉田先生撮影

福岡名誉教授がパーソナリティに
FMヨコハマ『ネイチャー・ワークス』

この春より、環境経済学がご専門の福岡克也立正大学名誉教授が毎週日曜日の朝7時～7時30分、FMヨコハマの『ネイチャー・ワークス』にパーソナリティとして出演している。

放送は「かけがえのない美しい地球を未来の子供たちに伝えたい」という願いのもと、環境問題を中心テーマとしている。

江川義忠氏（えがわ・よしただ）＝名誉教授（ヨーロッパ中世哲学）4月5日死去。83歳。

平山観月氏（ひらやま・みつき）＝名誉教授（書道史）5月23日死去。95歳。

私の挑戦

学生仲間で清掃活動

〝気付く人〟になろう

心理学部3年（会社経営者）　杉井　保之

みなさんは、校舎を掃除する学生の姿を見たことがあるでしょうか。

心理学部3年の杉井保之さん（45歳）は、自分が入学した立正大学を大切にしたいという思いから、学生生活課に掃除用具の設置を求め、現在、有志の学生とともに清掃活動を行っている。

会社を経営している杉井さんは、「社会に出て大切なことは、苦しいこと、意味のないこと、面倒くさいことをやれる力である。たとえ、どんなに優秀な成績で卒業しようとも、母校に煙草の吸殻を残すようでは、採用した会社を大切にし、組織で活躍するとはとても思えない」と語る。

会社経営者らしい、採用という観点の入った発言だ。なるほど、採用する側は、成績よりもそうした態度や精神を見ているのかもしれない。

全国の企業や学校で講演する杉井さんは、社会的な視点を兼ね備えた学生でもあるのだ。

「知識は『刀』のようなもの。せっかく努力して名刀を手に入れたとしても、『剣の腕』を磨かなくては役には立たない」

「ゴミを拾う人はゴミを捨てなくなる。ともすると逃れがちなゴミを拾うという行為が、その人を周囲に意識の払える人に変え、気付く人にしていく」

「イヤなこと面倒なことをすると、他人の苦労がわかる人になるだけでなく、忍耐力が身につく。忍耐力は苦手なことも上達させる力となり、その結果、成功の可能性が拓かれる」

人生のチャンスは、人から与えられるものだと言う。支持を多く得ている講演も出版物も、他者からチャンスを貰ってこそ具現化した。

自力は人生の1割、あとの9割は他力。しかし、その自力を、自分のためにではなく他力をもらえるように使うことが重要なのだと言う。「この人を応援したい」と思わせる人になること。

立正大学を大切にしたいと願うのは、自分が出た学校がいい学校であってほしいからだという。自分が卒業した学校を「いい学校ですね」と言われたら嬉しいし、自分が入学したことで「いい学校になった」と言われたらもっとうれしい、と目を輝かせる。

現在就職活動をしている学生にとっても同じことが言えるのではないか。

「多くの学生は、良いと言われる会社を目指すが、自分が入った会社を良い会社にしていく力こそ、自分の人生を切り拓き、良いものにしていく力なのだ」

警察官を10年務めた後、社員ゼロから会社を興してきた杉井さんの、力強い言葉である。

今後は、山手通りの掃除をしていく予定だとか。

顔が光っている人を私は初めて見た。表情が、目が輝いている杉井さんには人を惹きつける空気がある。

（学生記者OG山崎雅代＝平成16年3月卒）

◇杉井さんは『不完全なあなたへ～幸せに生きる秘訣～』を6月に文芸社より出版。

杉井　保之（すぎい　やすゆき）

昭和34年静岡県生まれ。静岡県吉田高等学校卒業後、静岡県警察官として10年間勤務。昭和61年家庭の事情により、家業のヤシロ消毒を継ぐ。平成2年株式会社オリジン・コーポレーションを設立。平成14年4月立正大学心理学部入学。現在3年生。

自主的に使えるよう学校に設置された清掃道具入れ

学校周辺を清掃（右上も）

異国追想

バレーボール50年①　原田　智

ミュンヘン五輪の大事件

昭和47年8月、第20回ミュンヘン・オリンピックを視察する機会が与えられ、教え子の激励も兼ねて、この際ヨーロッパ各都市の状況をつぶさに観察しようと、協会役員数人と羽田空港を飛び立った。

ロンドン・パリ・ローマ・ジュネーブの体育・スポーツの状況、大学のスポーツの状況などを視察し、ローマからミュンヘンへ飛ぶ時、空港で異常なほどの検問にあった。

何か変だなあと感じながらミュンヘン空港に到着、タクシーを拾ってホテルへと急いだ。ホテルへ着いて初めて大変な事件が発生していることを知った。順調な進行状況にあった平和の祭典が、11日目にその平和が破られた。8人のパレスチナ人テロリスト達が、オリンピック村を襲い、イスラエル人選手2人を殺害し、さらに9人を人質にとって市内を逃げ回っているとのこと。

外出禁止令が出ていて我々もホテルに缶詰状態。町の中は、戦車、装甲車、パトカーがサイレンを鳴らしながら走り回っていて、まるで戦場みたいだった。

この日の競技はすべて中止され、IOC委員会が臨時招集され、オリンピック続行か中止かの会議が開催されているとのこと。

午後6時頃になって明日の競技も中止と決定し、この間、ゲリラ代表と20時間余の交渉の結果、夜遅くなってゲリラ達を、人質と共に国外へ脱出させる手はずがついたという。

こうしてテロリスト達が飛行機に乗ろうとしたところを、西ドイツ狙撃班が急襲し、銃撃戦となってテロリスト5人と9人の人質が射殺されたという、まことにむごい悲劇的結末となってしまった。

一体どういうことだ。神聖で侵すべからざる平和の祭典が、いまだかつてない無惨な事件で血が流され、しかも多くの優秀な若い選手達が犠牲となり、オリンピック史に大汚点を残してしまった大会であった。

勿論、競技は中止され、午前中メインスタジアムで犠牲者の追悼式があり、葬送曲の流れる中で我々も参加し静かに冥福を祈った。

暴力に屈することなく2日遅れて競技は再開され、いまわしい事件を思い浮かべながら若人達はそれぞれの競技場へと向かった。日程も、時間も大幅に狂ってしまい、日本のバレーボール男女チームも調整に苦慮していた。

順調に勝ち進んできた女子チームは、決勝でソ連と対戦したが、大接戦の末、3対2で健闘むなしく銀メダルに終わった。男子チームも、準決勝でブルガリアに大苦戦、今日、語り草ともなっている奇跡の大逆転を演じ、勝ちを拾った。

決勝では東ドイツに3対1と比較的楽勝のケースで勝ち、ついに日本のバレーボールを世界の頂点に導いてくれた。今からちょうど30年前の偉業であった。

（立正大学名誉教授・元バレーボール部長）

「バレーボール研究」第5巻第1号2003年5月より

昭和48年頃、日本で開かれた対キューバ戦（中央の審判が筆者）

学内散歩

「長崎出島絵図」と田中啓爾文庫

地図の監修に常に教授の名

渡邊　寶陽（立正大学名誉教授）

現在、立正大学の全学生数は1万2千人余。経済学部の重鎮で日本学士院賞に輝く侘美光彦先生がそばを通っても、気が付かなかったり、今をときめく江戸東京博物館館長・竹内誠先生にしても同様であろう。テレビのテロップで「うちの教授なんだ」と知る先生方も少なくない。

それに比べれば、筆者が学生の頃は有名な先生方の姿に感動する機会があったといえる。

すこし前の時代まで、ほとんどの地図の監修は、地理学科の田中啓爾教授の名であった。朴訥とした風貌の先生にお見受けしたが、印税のほとんどを古書の買い付けにまわして、奥さんに渡さなかったとのこと。

先生の没後、蔵書のすべては本学の図書館に寄贈され、膨大な量が田中啓爾文庫として架蔵されている。

あるとき、学長会議で隣同士になった立命館大学総長から地理学関係の辞典を贈られた。同書のカバー「長崎出島」の絵は国会図書館蔵となっているが、実は立正大学図書館の田中啓爾文庫から拝借したものなのですよ！と、お聞きした。その頃、国会図書館の絵を外部で利用することができなかったためという。

日本私立大学連盟の会議はABCの順で席が定められている。だから立教大学・立正大学・立命館大学・龍谷大学・流通経済大学といった「R」の群れに本学の席はあるわけで、そこから今のエピソードが生まれるわけだし、私立大学には地理学科がなかった時代からの、立命館との大学相互の交流の歴史もあるというわけだ。

学問は一日にして成らずである。〈学問三代〉と言った教授がいた。学問領域に基づく基本が打ち立てられ、資料が整えられ、その上に新たな学問の開拓が展開するというのである。

今は変化の激しい時代であるから、そんな呑気なことを言ってもいられないのであろうけれど、それでもやはり研究の伝統を無視することはできない。

本学がジョイントしている米国メイン州のサザンメイン大学を10年以上前に訪問したとき、パン製造のビルを買収して、全部を図書館に改造する苦労と成果を聞いたことが懐かしい。

田中啓爾文庫の「長崎出島」右が田中教授

学長からの手紙

下調べ無しに海外に行くな
ヒゲには大事な役割あり

高村　弘毅

前回の「手紙」で、雲の上の存在だった高村学長先生が、私達に親しみやすい存在になったのではないだろうか。今回はぐっと近い存在となるように、研究や人間としての側面をうかがった。研究調査やフィールドワークを通して得た広い見識と深い国際交流の話には驚かされた。すべてを記せないのが惜しいほどだ。

◇グローバル化に向けて

最近の学生や若い人達は、何の下調べも無く簡単に海外に行ってしまう。その安易さが心配。言葉も文化も異なれば常識も異なるのが当たり前で、お互いの違いを理解しないまま海外に出てしまうと、意図せずとも相手を傷つけ侮辱してしまうこともある。

国際交流はとても有意義なことだが、事前に他国の文化について学ぶことを忘れないで欲しいと、ご自身の体験も含め熱く語ってくれた。

◇大学院時代

先生は文学研究科地理学専攻博士課程の第一期生。その頃は地理学専用の研究室も研究道具もなく、道具などをすべて自腹で購入したという。購入した道具は大学に置き場所が無いため、毎日リュックに詰めて持ち歩いていたらしい。

その姿は二ノ宮金次郎のようだったとか。それを見かねた教養科目・生物学の堀江秀光先生が、内緒で実験室を提供してくれたこともあったと懐かしそうに語ってくれた。

◇学部時代の調査

出身地である青森県の南八甲田山に、ひとりで調査によく行ったようだ。調査費は自腹のため、山小屋の資材置き場や斜面の樹枝に温室用のビニールを張って泊り、できるだけ節約し長期の調査ができるようにしていた。

熊の出現や、斜面にテントを構えていたため寝るときは木を跨いで転げ落ちないよう気を配らなければならず、熟睡できなかったとのこと。

しかし、そのおかげで自然に挑戦し自然と調和する術と、物事に対する度胸と根性を身に付けることができた。この体験は、後の海外調査で確実に役に立ったとのこと。

◇研究に対する想い

「私は秀才でも天才でもないから、人よりプラスアルファ努力しなければ仕事と研究のかけ持ちができないのだよ」と先生は笑う。

「常に外に向かって情報を発信することが大学の価値の一つでもあると思う。私は今後どんなに忙しくても、研究は続けていきたい」と研究への熱い想いを語っていた。

◇ヒゲの秘密

高村先生の特徴といえば、おヒゲである。これは趣味で生やしているわけではない。先生の研究テーマ（開発途上国の水資源の開発と保全に関する研究など）の都合上、海外しかもアラブ地域での仕事が多くなる。

アラブ地域はイスラム圏であり、男性はヒゲがないと成人の男と認められず、その結果、調査・研究への協力も得られないというわけである。

イスラム圏以外でもヒゲは怪我や皮膚病、虫などから顔を守る大事な役割を果たしているという。いつでも海外へ行けるように、ヒゲを剃らずにいると話してくれた。

◇憧れの女性像

好きな女優は、京マチ子と大竹しのぶ。

女性の話は苦手らしく筆者が話題を振っても、なかなか話していただけなかった。テレ笑いを浮かべながら他の話題に変えた高村先生に、いっそう親近感を覚えた。

学生記者・大坪史織（心理学研究科1年）

❷ 大学3年。下宿にて友人と（右が高村先生）

私の独信〈5〉

膝が悲鳴をあげた！
「歩く瞑想」ができない……
プールの中で〝復活〟図る

仏教学部助教授　髙橋　堯英

一昨年、三島市に引っ越した。東京と違って、何となく時間がゆったり流れている気がする町である。

近くには三島大社があり、散歩に格好である。箱根や伊豆にも、アクセスがよい。

何よりなことは、美味い鰻屋が近くにあることである。

「留学は体力勝負だ」と学生時代は3キロ程のジョギングとスカッシュの練習を欠かさなかった。「ゲームと勉学の両立」というカレッジの伝統もあった。

しかし、帰国してからの十数年、運動らしい運動はしていない。ほっておくと天井知らずに増えてしまう体重対策に、アパートの東を流れる大場川沿いを週に数回30分程歩いてはいた。

問題を抱えて煮詰まった時や混乱した時、思考を一度リセットして整理するにはウオーキングが最適。

私は、歩いている間は頭が空っぽになるように、足の運び一歩一歩に意識を集中させ、ただひたすら歩くという、「歩く瞑想」を心がけていた。

効果は絶大だった。歩けば歩いただけ体重も落ち、心も軽くなった。だが、昨年の7月頃、大きな問題が起こった。百キロ超級の体重を支えていた膝がついに悲鳴をあげたのだった。

「歩きたい、でも歩けば膝が痛む」といったジレンマの中、「水の中なら、浮力を生かすことが出来る」と気がついた。そこで、時間を見つけては、市営プールやスポーツセンターで、水中歩きや水泳に取り組んだ。

昔から平泳ぎは得意だったが、蹴り足で膝が痛む。だから、得意ではないクロールで泳がねばならなかった。

始めた当初は一辺20メートルのプールを、片道泳いでは休み、そして戻るという風であったが、まさに「継続は力」である。毎回少しずつ距離を伸ばしていったら、30往復続けて泳げるまでになった。

意識してしっかりと息を吐き、しっかりと息を吸い、一かき一かきを自覚して、ゆったりと泳ぐのである。肩こりも和らぎ、腰の張りも緩和されるという効果も知った。

新年度に入り、泳ぐ時間を全く確保出来ないでいる。膝に相談し、「そぞろ歩きでも始めねば」と思っている。

学内点描 26

立正大学博物館（熊谷キャンパス）
歴史、民俗、芸術、産業、自然誌
収集資料を広く公開

貴重な資料が展示されている博物館内部

立正大学創立130周年記念として、平成14年4月1日、熊谷キャンパスに立正大学博物館が開館しました。

当博物館は、歴史・民俗・芸術・産業・自然誌に関する学術資料を収集・保存して広く社会に公開し、これらを調査研究すると共に、教育・発展に寄与することを目的としています。

平成16年4月からは、博物館法に定められている登録博物館と類似する大学付置「博物館相当施設」に認可されました。

主な展示資料は、1階に立正大学考古学研究室が昭和33年～昭和55年に実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された、埼玉県を中心とした窯等の資料や、眞鍋孝志氏（古鐘研究会会長）より寄贈された梵音具を中心とする撫石庵コレクション。

2階には、吉田格氏（立正大学専門部地歴科昭和16年卒）寄贈の本草学者・伊藤圭介蒐集の石器を含む縄文時代を中心とするコレクションや、本学が昭和42年～昭和52年に調査したネパール王国ティラウラコット遺跡からの出土資料、久保常晴氏（元本学名誉教授）寄贈の樺太出土資料などがあります。

また、平成15年度は7月に第1回企画展「写真で見る日本古代木造塔の心礎―岩井隆次氏寄贈写真による―」を、10月に第1回特別展「立正大学が発掘した埼玉の古代窯跡」を開催しました。

そして、平成16年度は4月に第2回企画展「南極、自然と人―南極観測の記録から―」を開催。10月には第2回特別展を行う予定です。

（上野　恵司）

〝就活〟を始める3年生へ
私はなぜ就職するのか
意志決定の自覚から自己分析へ

大崎キャリアサポート課長
吉山　辰之

インターンシップ説明会の様子

就職活動（略して就活と呼びます）は、皆さんにとって初めての経験であり、恐らく漠然とした不安を感じている人が多いのではないでしょうか。

その不安の根底には、就職試験がどんなものかわからない、自分を採用してくれる会社はあるのだろうか、といった自己評価に係わる不安と、職業情報に関する不安や、自分は将来何をしたいのか、どんな仕事に興味があるのか、また、どんな仕事に向いているのか、まだわからないといった自己分析的な不安があるのではないでしょうか。

これから就活を始めようと思った人の多くは、大学を卒業したら働くことは家族や社会の期待することであると理解できた人であると言えます。

過去の先輩たちの就活では、自分は就職先を選ぶだけで、そうすれば会社が自分のやるべき仕事を決めてくれるといった、「就職」ではなく「就社」を目的とした就活が主流でした。

しかし、このようなやり方は急速に変化してきており、今では「何がしたいのか」、「何ができるのか」をはっきり表明できる人材が求められています。

現在の就活に成功するにはどのように取り組んだらよいでしょうか。

ひとつの方法として、以下のプロセスを考えてみたらどうでしょう。

①就活をなぜするのか（意思決定の自覚）→②就活をする自分とは何か、何をしたいのか（自己の再評価・自己分析）→③職業・仕事の特定（どんな職業・仕事に興味があるか二つ以上見つける）→④選択肢に関する情報収集（職業情報収集）→⑤仮決定（複数の職業・仕事の選択後、一つの選択肢を選ぶ）→⑥企業情報の収集（業界研究・企業研究）→⑦採用試験対策（応募書類の作成・筆記試験・面接試験）。

具体的な就活の方法については7月から開始する「就職ガイダンス」で説明する予定です。

皆さんの出席を期待しています。

平成16年度　立正大学入学試験結果

【昼間主・昼間コース／A・Bコース】

学部	学科		入学定員	全試験（推薦+特別+一般） 志願者数	受験者数	合格者数	倍率	第二志望合格者数
心理	臨床心理		150	2,218（1,166）	2,142（1,133）	348（ 235）	6.37	0
地球環境科学	環境システム		100	835（ 233）	820（ 230）	249（ 87）	3.35	*
	地理		130	584（ 92）	560（ 85）	322（ 62）	1.81	*
	小計		230	1,419（ 325）	1,380（ 315）	571（ 149）	2.49	*
社会福祉	社会福祉		200	1,057（ 526）	1,032（ 514）	595（ 327）	1.78	*
	人間福祉		100	597（ 357）	585（ 350）	257（ 167）	2.32	*
	小計		300	1,654（ 883）	1,617（ 864）	852（ 494）	1.94	*
法	法		300	1,779（ 329）	1,715（ 316）	652（ 142）	2.73	*
経営	経営		350	2,665（ 448）	2,607（ 441）	769（ 187）	3.47	0
経済	経済		250	2,654（ 317）	2,581（ 309）	658（ 108）	4.03	0
文	哲		75	425（ 83）	401（ 79）	205（ 54）	2.07	0
	史		105	1,158（ 305）	1,103（ 291）	295（ 117）	3.93	0
	社会		105	652（ 191）	620（ 179）	293（ 107）	2.23	0
	文	日本語日本文学専攻	130	547（ 257）	515（ 242）	190（ 111）	2.88	0
		英語英米文学専攻		347（ 149）	328（ 139）	152（ 92）	2.28	0
		文学科計		894（ 406）	843（ 381）	342（ 203）	2.61	0
	小計		415	3,129（ 985）	2,967（ 930）	1,135（ 481）	2.76	0
仏教	仏教	仏教思想歴史専攻	45	64（ 16）	60（ 15）	55（ 14）	1.16	0
		仏教文化専攻		63（ 19）	60（ 18）	51（ 14）	1.24	0
		仏教学科計		127（ 35）	120（ 33）	106（ 28）	1.20	0
	宗		35	86（ 5）	83（ 5）	65（ 4）	1.32	0
	小計		80	213（ 40）	203（ 38）	171（ 32）	1.25	0
昼間・昼間主／A・Bコース計			2,075	15,731（4,493）	15,212（4,346）	5,156（1,828）	3.05	0

【夜間主コース】

心理	臨床心理		100	431（ 212）	411（ 203）	141（ 78）	3.06	44（25）
経済	経済		160	286（ 20）	261（ 20）	126（ 15）	2.27	30（ 7）
文	哲		30	68（ 20）	65（ 20）	49（ 18）	1.39	15（ 3）
	史		40	117（ 25）	113（ 23）	42（ 14）	2.79	20（ 8）
	社会		40	87（ 23）	80（ 21）	58（ 16）	1.50	14（ 3）
	文	日本語日本文学専攻	40	50（ 16）	48（ 15）	33（ 14）	1.52	7（ 3）
		英語英米文学専攻		32（ 10）	31（ 10）	22（ 9）	1.45	11（ 2）
	文学科計			82（ 26）	79（ 25）	55（ 23）	1.49	18（ 5）
	小計		150	354（ 94）	337（ 89）	204（ 71）	1.74	67（19）
仏教	仏教	仏教文化専攻	20	23（ 5）	20（ 5）	20（ 5）	1.15	4（ 1）
	宗		20	22（ 2）	17（ 2）	13（ 2）	1.69	1（ 0）
	小計		40	45（ 7）	37（ 7）	33（ 7）	1.36	5（ 5）
夜間主コース計			450	1,116（ 333）	1,046（ 319）	504（ 171）	2.21	146（52）

昼間主・昼間コース／A・Bコース 夜間主コース　合計	2,525	16,847（4,826）	16,258（4,665）	5,660（1,999）	2.87	146（ 52）

注. 第二志望合格者数は、合格したコース欄に表記しています。
注. （　）内の数値は女子内数を表しています。

平成17年度　立正大学入学試験日程

試験区分		日程項目	出願期間	試験日	合格発表日
推薦試験	公募制	地球環境科学部	11/1（月）～11/10（水）	11/21（日）	11/26（金）
		社会福祉学部			
		心理学部			
		経営学部			
		文学部			
		仏教学部			
		仏教学部（特別推薦）		11/20（土）	
		文学部（プレゼンテーション推薦）			
特別試験	社会人入学試験（心、地球、社福、法、営、経、文（夜間主）、仏）		11/1（月）～11/10（水）	11/20（土）	11/26（金）
	海外帰国生徒試験（心、地球、社福、法、営、経、文、仏）				
	専門高校（学科）・総合学科生徒試験（地球、文）				
AO試験	社会福祉学部		8/16（月）～8/21（土）	9/26（日）	第一次9/10（金）第二次10/1（金）
	法学部（SSP特別奨学生入試）				
	仏教学部		8/20（金）～9/1（水）	9/25（土）	
	経営学部		9/1（水）～9/10（金）	9/26（日）	第一次9/19（日）第二次9/30（木）
センター試験	心理・地球・社福・法・経営・経済・文・仏教		1/4（火）～1/14（金）	1/15（土）1/16（日）	2/11（金）
	法学部（後期日程）		郵送出願 2/14（月）～2/24（木） 窓口出願（大崎） 2/25（金）、2/26（土）		3/11（金）
一般試験	2月試験（前期）	心理学部	郵送出願 1/4（火）～1/28（金） インターネット出願 1/15（土）～1/30（日）	2/3（木）2/4（金）	2/13（日）
		地球環境科学部			
		社会福祉学部			
		法学部			
		経営学部			
		文学部			
		仏教学部			
		経済学部		2/4（金）	
	統一試験 2月試験（前期）	心理学部		2/6（日）	
		地球環境科学部（地理学科）			
		社会福祉学部			
		法学部			
		経営学部			
		経済学部			
		文学部			
		仏教学部			
	統一試験 2月試験（後期）	心理学部	郵送出願 1/4（火）～2/14（月） インターネット出願 2/9（水）～2/15（火）	2/21（月）	3/1（火）
		地球環境科学部（地理学科）			
		社会福祉学部			
		法学部			
		経済学部			
		文学部			
		仏教学部			
	統一試験 3月試験	心理学部	郵送出願 2/14（月）～2/24（木） 窓口出願（大崎） 2/25（金）、2/26（土） インターネット出願 2/19（土）～2/27（日）	3/4（金）	3/11（金）
		地球環境科学部			
		社会福祉学部			
		法学部			
		経営学部			
		経済学部（夜間主）			
		文学部			
		仏教学部			
編入学試験	心理（昼間主）・地球・社福・法・経営・経済・文・仏教　注1		郵送出願 2/14（月）～2/24（木） 窓口出願 2/25（金）、2/26（土）	3/4（金）	3/12（土）

注1　編入学試験（2年次編入）… 心理（昼間主）・地球環境・社会福祉・法・経営・経済・文・仏教
編入学試験（3年次編入）… 社会福祉・法・文・仏教

新しい仲間と巣立つ人と

満開の桜に迎えられる新入生

◆平成15年度**卒業式**が3月23日大宮ソニックシティで行われ、2583人がほころび始めた桜のもと巣立った。

◆平成15年度**大学院学位記授与式**が3月19日大崎キャンパス石橋湛山記念講堂で行われ、修士学位118人、課程博士10人に学位が授与された。

◆平成16年度**入学式**が4月1日熊谷キャンパス体育館で行われ、2975人が立正生の仲間入りをした。

◆平成16年度**大学院入学式**が4月3日大崎キャンパス石橋湛山記念講堂で行われ、134人を迎えた。

社会に出てもガンバローね！

立正詩壇

嶋岡　晨　選

存在　戸倉　良太（文学科1年）

僕は伝えるためにここにいる
砂糖をまぶしたカミソリの刃
僕は伝えるために呼吸する
脈打つ人波に潜水するダイバー
心を傷つけるためにここにいる
血が滲む　生きていると感じる
そして前を向く
自覚的に
自覚的に―。

リボルバー　大石　真也（文学科2年）

今日も今日とて、むかつくことがあった。
帰宅後、いつもの通り自室にこもり、
机の一番下の引き出しを開けソレを手にした。
一挺の回転式拳銃（リボルバー）
これで、むかつく奴を撃ち殺してしまおう。
問題は、銃弾が一発しかないのに、
むかつく奴はそれこそ無数にいるということ。
さて、誰をターゲットにしようか？
頭に拳銃を当て、目を瞑って、考える。
――おれだ、まずおれをやるんだ。

［評］

戸倉良太「存在」――何のために自分は存在するのか、という哲学的自問自答だが、へんに観念的でなくむしろ生理的なまなましさがあり、二行目など衝撃的で新鮮。逆説や自虐や笑いが、うまく混ざっている。大石真也「リボルバー」――腹立たしいことの多い現実に対し、秘蔵の拳銃を手に殺害を思う。しかしよく考えれば、どうやら原因は自分にある。拳銃を自分の頭にあてる――スリルにみちた結末。今日の若者らしい心理の表出。他に心理学部の高橋飛勇雅、佐々木裕美、哲学科の宮森大輔、嶋谷佳恵、文学科の三浦裕次郎らみなさんの佳作もあった。もっと大胆かつ挑戦的な、今日ただいまの感性の主張があるとよかった。

立正俳壇

尾崎　文英　選

水温む鯉に争ふことありや
人中（ひとなか）に狸三匹四月馬鹿
春潮や汝が手庇（てひさし）にある愁ひ　神奈川県大和市　今関十三里
それぞれの想ひ巡らすさくらかな
古に想ひを寄する春霞　東京都大田区　佐野　光子
夢の数友の顔添え桜咲く
夏の屋久トッピと云う名の船の行く　東京都品川区　富田　玄華
遠き娘の手招きをする雪柳　神奈川県多摩区　渡辺さち子
凧あがる丹沢の峰やや上に　東京都町田市　長坂　輝秀
葬送の散華となれやぼたん雪　東京都大田区　水口　仁平
茜雲連山透かす春の月　岡山県岡山市　村上　壽孝
陽光に向けて飛び立つ鴨の群　東京都板橋区　多田　統一
新しき世紀も和暦好む老い　東京都品川区　前田　賢慈
学情センター初日に生るる大玻璃戸　東京都練馬区　西岡　翠

［評］

水温む――水温む季節になると、池の鯉はにわかに動きが出てくるが、人事を鯉に移して詩に至らしめた処が作意。二句目、痛烈な皮肉、俳諧がある、実に季語が生きて。三句目、これはまた何とうつくしい句であろう。たおやかで且つ繊細だ。**それぞれの**――この句、誰しもが同じように持つ感慨。本居宣長は「しきしまのやまと心」を桜に托していた。「それぞれの想」いに、読み手もいつしか加わっている。二句目、同じ視点で「春霞」を謳っている。「古に想ひを寄する」がいい。**夢の数**――岡本かの子歌集『浴身』を読むと、集中「桜」が一三八首あった。桜花が八変化していた。この句、「夢の数友の顔添え」て桜に和して面白い。二句目は夏の屋久島湾を興味深く謳っている。軽快に走る船が鮮明に見える。**遠き子の**――東北の地に嫁いだ娘が雪柳を分けてくれた。その雪柳が今年も咲いたのである。この雪柳を見るにつけ、遠く離れた娘がいとしく思われるのである。母娘の情は格別、真情が一句を成している。ストレートに謳ったところがよい。**凧あがる**――正月に男子が凧を揚げている。作者の居るところから見ると、「丹沢の峰」の「やや上に」見える。構図というか、風景が鮮明で韻律もいい。読んでたのしい俳句である。**葬送の**――作者の注に依ると、この句は岡山の山間の町を旅行中葬列に出会い、どなたの葬儀かと思い合掌したとある。折からの牡丹雪、忘じ難き光景だったのである。牡丹雪は雪片が牡丹花のように大きく降る。中七「散華となれや」がよい。**茜雲**――茜雲は、茜さす雲で赤い色の雲か。春月が昇り、「連山」がある透明感をもって、見事にうつし出されている。春月だと朧月の喩えもあるので、山の姿がはっきりしないように思えるのだが、この風景は不思議と暖かく鮮やかである。**陽光に**――鴨を謳った句である。この場面は河川か湖沼かいずれかだが、夕影の中に飛び立つ鴨の群が謳われていると思う。作者の位置からすると恰度夕焼け空の逆光の中に今飛び立ったところ。動画のシルエットを伺うようにまことに美しい。**新しき**――この句は、初暦それも「和暦」を好んで新年詠としている。新世紀にめくる暦、これは日常生活で欠かす事のできないものでもあり、心の糧ともなる。「和暦好む老い」の一人として自分はとこの作。温故知新の精神が伝わる。**学情センター**――『立正大学学園新聞』四月一日号に「総合学術センター完成」〝新学期から始動〟と一面記事と写真があった。この句はこの場面を先取りして、初日を浴びる学舎を「大玻璃戸」で新鮮に謳いあげている。初句、字余りだが。

作品をどうぞ

＜ご意見の投稿も＞

みなさんの作品を先生方が批評します。自分作品が先生方の目にとどまるのか、腕試しをしてみませんか。

投稿要領
ハガキ1枚に氏名、住所、電話番号、職業の他、在校生の方は学部と学籍番号を、同窓生の方は卒業学部と卒業年度を明記
資格
○同窓生及び家族　○在校生及び家族　○教職員
詩壇
○ハガキ1枚に短詩1編
○本紙編集部へ
俳壇
○ハガキ1枚に3句まで
○選者（尾崎文英）宅へ
○〒192-0056
八王子市追分町6-15日朝寺
歌壇
○ハガキ1枚に2首まで
○選者（成瀬有）宅へ
○〒353-0006
志木市館1-1-3-405
締切
○平成16年8月1日必着

立正歌壇

成瀬　有　選

新しき墓に入仏開眼の読経の声を噛みしめて聞く　梁瀬　龍天（新庄市）
ミルク色に朝もや包むカトマンズ陽に照り映ゆる峯々の昼　近藤　榮子（品川区）
傘差して　無理矢理二人　入ろうと頑張ったけど土砂降りの雨　我妻　秀和（心理学部3年）
いそいそと郵便受けをのぞきこむ賀状の届く新年の朝　桜庭　優子（鴻巣市）
くるま座でタバコふかしてバカ言う友よこれぞ青春これぞ思い出　山本　泰智（文学部3年）
そんなにもきれいじゃないと泣く君をいいじゃないと抱き寄せた僕　真下　崇（文学部3年）

［評］

毎回、多くの熱心な投稿歌が届く。当然のことだが、すべてがすばらしいとは限らない。惜しい、この箇所をこんな風にと思うことがしばしばである。短歌は短詩型、大袈裟でなく、助詞一つを変えただけで、まったく別の世界が現れることがある。今回は添削例を中心に考えてみた。作歌の参考にしていただきたい。

梁瀬作品。惜しい一首。原作の四句は「語句」とある。「噛みしめて聞く」を活かし切れていない。**近藤作品**。この一首も惜しい。原作の初句は「の」、「カトマンズ」に係らせたい。また原作「包みし」の「し」は過去の助動詞。ここは現在形にしたい。**我妻作品**。原作の結句、「雨は横から」。四句までの状況を説明している。短歌は説明臭を潔癖すぎるほどに嫌う詩型であることを知ってほしい。**桜庭作品**。原作の下句「のぞきこみ心がはやる新春の日よ」。なぜのぞき込むのか、不鮮明。添削では年賀状としてみた。

最後に添削不要の作品。**山本作品**、ぎりぎりまで出来なくて、最後の最後、叫びのように発した歌。その良さ。**真下作品**。これもまた青春真っ只中。やや甘いが、純直に不器用に歌った愛。

読書散歩

深川　堅護

「夜のミッキー・マウス」
谷川俊太郎（新潮社）

ミッキー・マウスと人間の関係はネズミとネコの関係と同じだ。ミッキーは古今東西の老若男女を魅了し、ネズミは地球中のネコの網膜にそのイメージの原型を焼き付けている。

この詩集には夜のミッキーとか朝のドナルドとかが登場するが、読者をロマンチックに包み込んでくれるわけではない。それどころか死とか満足とか愛とか存在とか忘れるとかについて、まっぱだかのイメージを無礼で乱暴な形であからさまにする。あのミッキーも夜は鼠男だ。

「この詩で何が言いたいのか」と考える前に強制的に脳裏にこびりつく詩もあれば「この詩はなんなんだろう」と思う前に雑音のごとく飛ばされ忘れ去られる詩もある。ここから後はこの詩集が私に読めと勧めた方が言うように、最高かどうかを自ら確かめたいあなたが読んでもいっこうにネタばれにはならない。残念なことにこの場ではメタファーや伏せ字の力を借りないとこの詩の引用すら許されないから。

『なんでも○○○○』（○は伏せ字）「おれ地面掘るよ　土の匂いだよ　水もじゅくじゅく湧いてくるよ　おれに土かけてくれよぉ」は死んで土に帰る人間の願望＝満足をうたっている。生の対局にあるものとしての死ではなく生の願望としての死を詠む。

『あのひとが来て』「そのあとのことは覚えていない外は雨で一本の木が濡れそぼって立っていた　あの木は私たちより長生きするそう思ったら突然いま自分がどんなに幸せか分かった」も、一本の木（新しい生命＝子孫）にみえた新しい有限性と歓びをうたっている。「時間は永遠の娘　歓びは哀しみの息子　あのひとのかたわらでいつまでも終わらない音楽を聞いた」。

『忘れること』「だがどうして忘れてしまってはいけないのか　倦きることと忘れることのあのあえかな快楽が　朝の光をこんなにもいきいきとさせているのではないか」は何でも忘れていいんだよ、忘れないと一日ははじめられないよ、と語りかけてくれる。

短いものについて長く書くのは長いものについて短く書くのと同じくらい気楽だ。あらゆる小説は要約すると「いろいろあった」となるのだろうが、あらゆる詩はもう要約できないから何とでも書ける。この自由がすてきだ。

立正中学・高等学校

身延山オリエンテーション

4月1日～3日

㊤勤行にのぞむ生徒たち ㊦身延山オリエンテーションの記念撮影

内進生も加わって「行学の二道」体験

「行学の二道」を体験し、基礎学習生活を身につけ、さらに相互の親和と協調性を図ることを目的に、身延山に行ってきました。

昨年まで高校生は外進生のみの参加でしたが、今年度からは内進生も加わり、総勢で230人を超える大所帯でした。

1日目は移動に半日を要し、午後から開始式。2日目は早朝5時からの勤行後、高校生活のガイダンス、学園歌の練習、身延山の見学。3日目には、このオリエンテーリングで最大のイベントである身延山登山に挑戦しました。

義務教育を終え、新たな制度の下で勉学に励むという意味では、外進生はもちろん、内進生にとっても大きく環境が変わる節目なのです。

高校で学ぶことの意味、立正で学ぶことの意義について、生徒たちは十分に理解できたと思います。

多くの友を得て

桜並木の美しさが、こんなに目にしみたオリエンテーションは、私にとって初めてでした。桜の花々が新しい立正生の門出を祝ってくれていました。

そんな思いに「間違いない」とひとり語りで合いの手を入れてきたオリエンテーションでした。初めは、桜の名所でもある身延山の渋滞にまんまと捕まってしまい、総門前から坊まで歩いて向かいました。

長く停められないバスからてきぱきと荷物を取り出し、1列に整列して歩く様は、中学生としてしっかり行動できた証です。

翌朝、あいにくの空模様で、朝の勤行に向かう移動は雨まじりの中でしたが、乱れることなく移動できました。勤行に参加する態度、大講堂での法話やガイダンスの話を聞く姿勢、どれもすばらしかったと思います。

特に学園歌の練習後、椅子の向きを元に戻さなければいけなかったとき、自分達で一斉に向きを直せたのは立派でした。

そして多くの友達を得て、早朝の登山をやり遂げた充実感を胸に、立正生活をスタートできたオリエンテーションでした。

（中学1年学年担当　土井　丈）

つらい登山も楽しい思い出

私の一番不安だったことは、友達を作ることでした。「できなかったらどうしよう」と不安で一杯でした。

二番目に不安だったのは「身延山に登ること」です。

私は6年生の時、学校の行事で本栖に行き富士山に登りました。山を登るのはとてもつらいことは知っていました。

「倒れたらどうしよう」「頂上まで上がれないかも…」とばかり考えていました。

でも時間が過ぎてゆくたびに不安は消えていきました。バスの中で友達ができ、ちょっとずつみんなのことがわかってきました。

2日目の朝、気合が入って起きました。時刻は4時30分で、真暗な中で勤行に参加しました。5時30分なのに人がたくさんいてビックリしました。

太鼓の音やお坊さん達のお経。お坊さんは長い間、正座しているのですごいと思いました。

3日目の朝、いよいよ身延山に登る日です。不安は少しありました。大講堂まで先生と一緒に行きそこから頂上まで登ります。

最初は頑張って登っていましたが、辛くなって頭がクラクラしてきて「もう登れない」と考えてばかりいました。でもここで、諦めたらどうなるか「自分の実力ってここまでだったの」と考えました。

友達と休み休み頂上まで登りました。頂上から見た景色はうっすら曇っていましたが、「南アルプス」が見えキレイでした。

オリエンテーションは思い出にもなるし、自分を鍛えることもできると思いました。

（中学1年　和田亜弓）

文科大臣楯全国大会に出場

立正高校ゴルフ部

日原、吉沢君奮闘

奮闘した日原君（左）と吉沢君

平成16年3月29日～31日、滋賀県大津市にある瀬田ゴルフクラブで「文部科学大臣楯争奪平成15年度全国高等学校ゴルフ選手権春季大会」が行われた。

本校ゴルフ部からは、5年の日原篤志・吉沢慎太郎の両君が出場した。

大会期間中も朝6時から練習場へ行き、球を打ち込み精一杯頑張った。

結果は次の通り。

日原篤志　24位　152（75・77）

吉沢慎太郎　109位　166（84・82）

中学　池上本門寺で入学式

平成16年度　入学記念　平成16年4月8日　立正中学校1年生　於：池上本門寺

身延でのオリエンテーションを終え、新しい仲間と共に肩を並べ合って迎えた池上本門寺における入学式（4月8日）。

小学校の時までとは違って、皆が同じ制服を身にまとい、真剣な顔つきで話を聞く姿勢、そして気持ちのいい大きな歌声は、中学校生活への期待とやる気で満ち溢れているように感じられた。

先輩の温かく見守るような歓迎の言葉に勇気づけられ、新入生による力強い宣誓が行われた。その思いは230人同じであったに違いない。

この新たな決意を胸に、彼らはすばらしいスタートを切った。

この生徒に注目！

緊張感が魅力

高3　中西　あき娘ら

★玄潮会賞。日本武道館賞。毎日新聞社・日本書写能力検定委員会主催全国硬筆コンクール特別教育奨励賞。

◆習字を始めた理由

字を上手に書けるようにという母の勧めで、小学2年生から始めました。

◆習字の魅力

一回書いたらもう消すことができない、なんとも言えない緊張感の中で書くおもしろさが、習字の魅力です。

◆今後の目標

これからも習字を続け、師範の資格を取得したいと思っています。

あっとランダム

最近時間に追われることが多い。このコラムの原稿も明日が締め切りである。

締め切りはさておき、都会の生活において、我々は様々な時間的制約に拘束されながら暮らしている。

電車の時間や仕事の締め切りなどは社会生活を送る上で守るべき制約であろう。

しかし、最近強く感じるのは、食事、入浴、就寝などの生活行為についても時間的制約に縛られながら行っているということである。

生来ののんびり屋な性格が災いしてのことかとも考えたが、どうやらそれだけが原因ではないようだ。

思うに、守らなければならない時間的制約というものを、普段の日常生活の中にも持ち込んでしまっているということも、大きな原因のひとつではないだろうか。

つまり、時間的制約を持ち込まなくてもいいところにまで制約を持ち込んでいるというわけである。

もちろん、時間は有限である。だから無駄遣いはできない。

しかし限られた時間を有効に使うためにも、「社会の時間割」と、「自分の時間割」は区別すべきである。

社会の慌ただしさに、自分の時間間隔までも巻き込まれてはいけない。

「のんびり屋」といわれるかもしれないが、もう一度「自分の時間割」を見つめなおしてみようと思う。

（M　S）

立正大学淞南高等学校

男子団体と個人制覇

中国選手権県予選で実力発揮

空手道部

今年度最初の公式戦となった中国選手権大会県予選が4月29日に開催され、我が部は前評判通りの安定した実力を発揮した。男子団体形優勝、男子団体組手優勝、個人形で元廣惇君が優勝、個人組手で佐々木史明君優勝、山田友貴君準優勝、坂本憲司君3位、藤井秀樹君3位と独占状態だった。

6月18日より鳥取県で開催される中国選手権への出場権を獲得した。また、今年のインターハイ空手道競技は島根県の東出雲町で開催される。本校はインターハイ4年連続出場、2度の個人組手5位入賞の実績があるが、今後更に技に磨きをかけ中国選手権での優勝、インターハイでの上位入賞を目標として練習に励みたいと思う。

（空手道部顧問　名原昌洋）

この他の剣道部、バスケット部については部員が多数入り、その活動にも活気が帯びてきたことを感じさせる活躍だった。まず、剣道部は部員が減少し男子団体も組めない状態が続いていたが、団体戦に参戦することができ、1回戦浜田水産高校に5対0で完勝。その勢いで臨んだ2回戦は優勝した大社高校に完敗してしまったが、今後に繋がる何かを掴んだはずだ。

女子では、個人戦で3年生の中西さんが健闘し、中国大会への出場権を得るベスト32に入った。バスケット部はまだ勝ち星はないが、1度大敗した平田高校に僅少さにまで詰め寄る戦いぶりを示した。

気迫の蹴りを相手に決める

一糸乱れぬ構えで他を圧倒した男子団体形

修学旅行は沖縄へ

3泊4日　貴重な体験

世界最大の水槽がある美ら海水族館で

一番の思い出はアメリカンファミリーとのミニホームステイ

降り注ぐ太陽、エメラルドグリーンの海とまさに常夏の地というにふさわしい沖縄。今年の修学旅行は昨今の海外事情を考慮し国内で行うことにしました。

1日目は沖縄の観光名所である守礼門に始まりました。2日目の美ら海水族館では、世界最大級の水槽、ジンベイザメが圧巻。そのスケールの大きさに生徒の歓喜の声があちこちで聞かれました。

しかし、何といっても一番の思い出はアメリカンファミリーとのミニホームステイでした。生徒は2、3人に分かれ、各家庭で胸ときめく時間を過ごしました。買い物に行くなどの楽しい時を、英語を駆使しながら一生懸命に共有していました。別れの時に感極まって泣く生徒達の姿に、いかに有意義な時間であったかをうかがい知ることが出来ました。

あっという間に過ぎた3泊4日の修学旅行を終え、日本でありながら独自の文化を育んできた沖縄で貴重な体験が出来、良い思い出となりました。

（引率教員・大木秀樹）

8月1日から04中国総体

地元開催で準備に追われる

島根県をメイン会場として開催される平成16年度全国高等学校総合体育大会は8月1日より20日間の日程で行われる。

島根県だけでも選手役員を含め約3万4千人ほどの参加者が見込まれ、応援も含めるとその数は膨大なものになる。これだけの一大イベントに全県下の高校を挙げて協力をしていかねばならない。

本校では、マーチング部が総合開会式の公開演技マーチング部門の中心校として準備・練習に追われている。この他、サッカー、剣道、水泳、空手道等競技種目別の指名教員として参加するのを初め、他の教員や生徒も多数動員される。

学校でも花のプランター栽培や、記念品の制作、各種総体関連イベントへの参加など、開催までますます忙しくなっていく。この大会が、思い出深い良い大会になるよう、一人一人が積極的に関わっていくことが重要であると感じた。

本校選手が県予選を突破し全国大会に出場して活躍することと、盛大で立派な大会になることを祈りたいと思う。

準決勝戦で開星高校のDFをかわしてゴールへ

サッカー部

中国総体へ一歩前進！

島根No1に

平成16年度中国高等学校選手権県大会が、4月16日から行われた。今回、本校から参加した部活動はサッカー部、空手道部、剣道部、バスケット部だった。

サッカー部は、今年の全国高校サッカー選手権大会で初のベスト16進出の活躍を見せ、今大会でも優勝候補の一角に挙げられていた。

松江地区大会は無難に勝ち上がり、県大会出場を確定した。県大会は、松江北高校に4対0で勝って準々決勝へ進み、ベスト4の対戦校は県の強化指定校でもある強豪益田高校だった。白熱したゲームは延長戦に入り、そこであげた1点が決勝点となり3対2で辛勝した。

準決勝は新人戦優勝校開星高校とのPK戦で苦しみながらも勝ち上がり、決勝戦へと駒を進めた。決勝の相手は上位進出常連校の出雲工業高校であったが、3対0で完勝し、5月に岡山県で開催される中国大会への出場権を得た。

島根県のサッカー勢力図は、県の強化指定校の大社高校、益田高校の公立2校と私立の開星高校と本校を合わせた4校を中心に厳しい戦いが展開されそうだ。

今夏島根県をメイン会場として開催される04中国総体の地元出場枠は2校である。この総体への出場は各チームの名誉と誇りと面子を掛けた熾烈で興味深い戦いになることは疑いのないところである。

立正大学同窓会

懸案解決に全力

立正大学同窓会会長
二ノ宮　啓吉

本年は在学生支援の一環として吹奏楽部の軽快なメロディーの中で開会し、提案したすべての議案が承認されました。

特に今年は会長改選の年でもあり、私に再度ご承認を賜り、心より御礼申し上げます。

「同窓会は如何にあるべきか」の原点に戻り、全国支部活動の支援や組織規約のあり方を早急に検討し、懸案の同窓会館問題についても会員各位のご意見を尊重し、積み残した課題に向かって全力で邁進することを約束させて頂きました。

翌朝開催させて頂きました支部長懇談会も、短時間ではありましたが、頂きましたご意見は第一回理事会において各委員会構成を整えて審議させて頂きます。

ご協力に感謝申し上げると共に、会員各位のご活躍をお祈り申し上げます。

晴れ渡った5月29日、「幕張メッセ・国際会議場」に各県支部長・代議員と多数の会員を迎え、学園より大津副学長・森岡キャリアサポートセンター長様のご臨席を頂き、千葉県支部山田支部長・中村事務局長のご支援を賜って定期総会が盛大に開催されました。

定期総会で挨拶する二ノ宮会長

活躍する同窓生

子らの人格形成に

彫塑作品展を続ける　福田　恵日さん

私は昭和34年3月に文学部哲学科を卒業し、現在、国際美育交流連盟の理事長及び審査員を務めている。

国際美育交流連盟では、「第27回全国幼児児童生徒彫塑作品展」に対する文部科学大臣奨励賞2点（個人賞・団体賞各1点）への申請書を今年度も4月初旬に認可された。

毎年2月中旬前後の金・土・日曜の3日間、幼児児童生徒の彫塑作品約3千有余点が前橋市にある群馬県生涯学習センターに展示され、一般公開されてきた。

10人程の審査員（文部科学省教科調査官を筆頭に芸術系専門の諸先生方）による作品選出が、前記2点のほか、県知事賞、県教育長賞を初めとして、国美連賞、全造連賞、関ブロ賞その他10数点の特別賞作品が一日中審査にかけられた。

子供達の「知情意円満」なる人格形成の一端を担う美術教育の作品展の精華が、4半世紀にわたりこの北関東の地で継続審査されてきた。立体的で破損し易い彫塑作品展は、搬入搬出に手間のかかる「教育文化事業」である。

それに加えて近年は学校週5日制の影響で芸術系の時間割が〝しわ寄せ〟され出展作品が減少している。

それにもかかわらず3千有余点もの応募作品があり、今回も8都府県にわたり出展があって、この教育文化事業も益々定着の様相を示している。

私は、立正大学卒業の前後より、この教育文化事業の作品展を妹の福田日出子（昭42年大学院哲学科修了）と共同で主催してきた。

文部科学大臣の祐筆も勤め、3月初旬には大阪など表彰式にも出席し〝東奔西走の日々に追われて、未だ現役をつとめる〟73歳の老骨である。

注　◆全造連賞＝全国造形教育連盟賞◆関ブロ賞＝関東甲信越静地区造形教育連合賞◆国美連賞＝国際美育交流連盟賞

（昭34年文学部哲学科卒）

彫塑展で展示される幼児児童生徒の作品

日本とマルタ友好のために

立正同窓生らが尽力

2月25日、地中海の小さな島国、マルタ共和国の唯一の大学、国立マルタ大学の図書館で、R．E．ミカレフ学長、A．マンジョン図書館長の列席の下、Japan Library創設セレモニーが開かれた。

これは、日本マルタ友好協会（会長・白鳥令東海大学教授）が、日本に大使館もないマルタに、日本を紹介する書籍、資料などを定期的に贈っていこうという提案をし、実現をはかってきたプロジェクト。

今回のセレモニーでは、図書贈呈式も行われ、日本から持参した各種書籍80冊が贈られた。

このことは早速、マルタの新聞でも紹介された＝**写真**。

計画では今後、毎年1～2回程度、日本で書籍を集めてマルタへ贈る予定だが、マルタサイドからは日本映画、ドキュメンタリーなどのDVD、ビデオの提供なども希望されている。

近年、マルタは旅行者、留学生の増加で日本のマスコミで紹介されることも多いヨーロッパの小国だ。

聖ヨハネ騎士団による城塞都市の遺構、あるいは世界最古の建造物と言われる巨石神殿群等から、世界遺産の国と表現されることも多い。

勿論、地中海リゾートの風光明媚な自然もすばらしい。

ブッシュとゴルバチョフの重要な和平会談の開かれた国として記憶する方も多いだろう。

そのマルタには、第一次世界大戦の際に英国艦隊の支援に赴いた日本艦隊の戦死者71人の墓があり、日本マルタ友好協会の親善旅行では毎回、この墓参を欠かさないが、今回もマルタ大学のセレモニーに先立って一行で墓参をした。

仏教学部OBの従野公徹さん（横浜・港北区の本乗寺住職）が読経をされる中、24人のメンバーが線香を手向け手を合わせた。

今回の旅行には、文学部の大島芳材名誉教授をはじめ、9人の立正大学関係者が参加、この親善旅行の重責を担う日本マルタ友好協会の会員は、その内5人に上った。

友好協会としては、若い世代の交流の場づくりを次のプロジェクトと位置づけ、広く賛同者を募ってその実現をめざしている。

私利私欲を排した手づくりの国際交流に関われることは、大変なことも多い反面、この時代にふさわしい多くの仕事と感激をもたらしてくれているのも事実で、そこに同窓生が参加し、貴重な経験を共有出来るのはとてもうれしいことだ。

（宮崎紘一＝昭42年経済学部卒　日本マルタ友好協会理事）

SUNDAY TIMES
FEBRUARY 29, 2004
set to be new PN leader
THE SUNDAY TIMES, FEBRUARY 29, 2004
They return... again and again
by Edward Sammut
THE JAPANESE GROUP from the Japan-Malta Friendship Association of Tokyo at Kakiara Cemetery on Wednesday
UNIVERSITY RECTOR Professor Roger Ellul Micallef signed the agreement flanked by Mrs Sugimoto and Librarian Tony Mangion with Eddie Sammut looking on

8月の地引網ツアーお誘い

◆千葉県支部主催地引網ツアーのご案内
日時　8月28日（土）午前10時に現地集合
場所　九十九里片貝海岸「海の家　茂丸」山武郡九十九里町片貝3537　☎0475（76）6827
費用　大人2千5百円　子供（小学生以下）無料　昼食付き

◆千葉県支部総会のご案内
日時　9月12日（日）午前10時～12時
場所　オークラ千葉ホテル　☎043（248）1122
懇親会12時半　会費2千円
問い合わせ　中村覚治　携帯090（3259）6160　☎・FAX043（292）4092

（塚越てい子）

学部だより

仏教学部同窓会会長に松本氏

5月28日（金）午後4時より千葉市美浜区「ホテルニューオータニ幕張」において、平成16年度仏教学部同窓会総会が開催された。

議題は、15年度事業報告、同決算報告、監査報告、16年度事業計画、同予算案、役員改選。以上が慎重審議され承認された。

新役員には左記の人たちが就任した。

会長・松本和道、副会長・吉田弘信、二ノ丸覚玄、幹事長・北原輝信

幹事・野坂法雄、肥田泰敬、青木正憲、小倉光雄、浅井慶信、評議員・小堀海誠、高作泰寛、奥澤文靖、井上朋胤、熱田仁成、鈴木嘉昭、浅野文徳、池田浩仁、赤羽文宏

監査・冨田浩僖、小埜栄裕、相談役・米田淳雄、平田泰啓、赤羽浩教、市川信徳、森田正道

（松本　和道）

文学部同窓会の役員立候補受付

先般、「文学部だより」において同窓会役員公募のお知らせをしましたが、編集に手違いがあり、立候補受付ができない状況での広報となってしまいました。改めて公募いたします。

立候補受付期間　平成16年7月1日より7月30日（必着）まで。

立候補の届出　立候補者は氏名・住所・電話番号・卒業時の学科・卒業年度を記入した文書を左記へ郵送してください。推薦者があれば推薦文も同封してください。書式は自由ですが、A4判でお願いします。

立候補届送付先（選考委員会）　〒144－0055　大田区仲六郷2－6－2　西岡勇治

◆文学部同窓会臨時総会のお知らせ
日時　8月7日（土）　午後2時
会場　「ゆうぽうと」5階品川区西五反田8－4－13
議題　文学部同窓会会長の選任について

これからの同窓会をさらに発展・充実させるため、心ある方の立候補と同窓会臨時総会への出席をお願い申し上げます。

（森　達也）

経営学部同窓会今年度行事予定

今年度の経営学部同窓会の行事予定は左記のとおりです。奮ってご参加ください。

◆サマーキャンプ
8月21日（土）・22日（日）軽井沢研修所　午後1時に現地集合　会費5千円　ゴルフ・テニス・散策あり
ご希望のコースにお申し込みください。

◆ボーリング大会
9月18日（土）五反田ボーリング場　午後4時　会費千円

◆ホームカミングデー
11月13日（土）大崎校舎懇親会費　2千円

◆勉強会
12月11日（土）大崎校舎午後4時

◆花紀行街道散策　2月開催　会費千円

申し込み先　鳥居洋子　☎045（543）4871

（塚越てい子）

定期総会に180人参加

吹奏楽部がマーチング演奏
懇親会に感動の輪
発祥の地・飯高檀林ツアーも

平成16年度立正大学同窓会定期総会は5月29日（土）に、『立正大学発祥之地』である千葉県の「幕張メッセ・国際会議場」で開催され、180人を超える、多くの皆様方にご参加を頂くことができました。

定期総会に先立ち、通常は記念講演会が開催されるところですが、今回は在学生とのふれあいの場があってもよいのでは、という千葉県支部広報部長からの発案の趣旨を取り入れ、同窓会役員の皆様並びに同窓会本部・吹奏楽部のご理解・ご賛同を頂き、勇壮な母校の吹奏楽演奏をお聞き頂きました。

懇親会会場で演奏を披露する吹奏楽部

「立正大学発祥之地」の石碑の前で

この時、参加者の皆様の心中には感銘とともに様々な思いが去来し、それぞれに新たな感動を覚えられたことでしょう。

こうして、和やかな雰囲気の中で、千葉県支部長・山田日等氏の議事進行のもと、平成15年度事業報告・収支決算・16年度事業計画・収支予算、同窓会会長及び本部役員選出等の提出議案を審議し、参加者の賛同を得て、すべて決定いたしました。

総会のあと、場所を「幕張プリンスホテル」に移し、懇親会が開催されました。アトラクションの吹奏楽部によるマーチング演奏が披露されると、感慨深げに聞き入る人、後輩の活躍に声援の目を向ける人など様々な光景を目にして、私自身、感無量の余り、涙を浮かべてしまいました。

演奏が終了すると、後輩たちに惜しみない拍手が沸き上がり、いつまでも鳴り止みませんでした。

その後も1年ぶりに再会を喜び、お互いの近況を語り合う姿や、20数年ぶりの同級生との再会を喜ぶ姿など、笑顔の絶えない和やかなムードで終了しました。

翌日30日のオプショナルツアーには、神奈川県支部の参加を含め、約90人の方々に参加頂きました。

天候が心配されましたが、同窓生を歓迎するかのように、少々蒸し暑くはあったものの、良い天気のなかで、立正大学発祥の地「飯高檀林（飯高寺）」を訪れました。

安興寺住職である北尾義昭氏より、発祥の地としての飯高檀林の歴史等をご説明頂きました。

なお、飯高寺の維持管理に財政的支援が必要な旨のお話がありましたので、同窓生の皆様の暖かいご支援を千葉県支部からもお願い申し上げます。

最後に、至らない点が多々ありましたことをお詫び申し上げるとともに、今後とも皆様方と、より一層親睦を深め、同窓会がますます発展しますよう祈念しまして、報告とさせていただきます。

（千葉県支部事務局長　中村　覚治）

飯高檀林ツアー。奥が飯高寺、右に「立正大学発祥之地」石碑

支部総会開催予定表

支部	開催日	場所	時間
北海道	7月3日（土）	札幌市「札幌アスペンホテル」	17時
秋田県	11月13日（土）		
福島県	7月31日（土）		
千葉県	9月12日（日）	千葉市「オークラ千葉ホテル」	10時
東京多摩南	11月23日（火）		
新潟県	8月21日（土）		
山梨県	7月10日（土）	甲府市「ニュー機山」	15時半
滋賀県	9月25日（土）		
広島県	8月29日（日）	福山市	
山口県	12月4日（土）	下関市	
長崎県	9月4日（土）		
鹿児島県	8月25日（水）		

問い合わせ先　立正大学同窓会事務局　☎03（3493）6673　6月4日現在

決算・予算書詳細はホームページでどうぞ

決算書及び予算書の詳細は同窓会のホームページをご覧下さい。立正大学のホームページ内の「卒業生の方へ」にある「大学案内」に同窓会のページがあります。

http://www.ris.ac.jp/

平成16年度　目的別予算表

（単位：円）

形態別科目＼目的別項目	総会関係費	広報関係費	学部同窓会関係費	支部同窓会関係費	大学・学生対策関係費	会員データ管理費	各種会議委員会費	本部運営費	合計
人件費	0	0	0	0	0	0	0	10,603,061	10,603,061
管理経費	4,155,000	18,719,000	0	1,185,000	500,000	1,300,000	5,158,700	4,937,325	35,955,025
福利厚生費	0	0	0	1,750,000	0	0	0	610,000	2,360,000
助成費	0	0	5,400,000	8,430,000	8,070,000	0	0	0	21,900,000
設備関係費	0	0	0	0	0	0	0	500,000	500,000
雑費	0	0	0	0	0	0	0	180,000	180,000
積立金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4,155,000	18,719,000	5,400,000	11,365,000	8,570,000	1,300,000	5,158,700	16,830,386	71,498,086

平成15年度　収支決算書（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

収入の部　（単位：円）

科目 款	予算額	決算額
1. 終身会費	60,000,000	56,460,014
2. 年次協賛金	3,006,650	2,525,780
3. 預金利息金	0	694
4. 寄付金	0	0
5. 雑収入	1,200,000	2,857,044
（収入合計）	64,206,650	61,843,532
6. 繰越金	11,000,000	11,169,229
合計	75,206,650	73,012,761

監査の結果相違ないこと認めます。
平成16年4月23日
監査人　山本滋雄　渡邊哲人

支出の部　（単位：円）

科目 項目	予算額	決算額
人件費	10,603,061	9,810,848
管理経費	36,216,525	25,810,099
福利厚生費	2,360,000	1,500,000
助成費	21,900,000	20,760,346
設備関係費	500,000	40,866
雑費	180,000	133,925
積立金	3,000,000	3,000,000
予備費	447,064	0
（支出合計）	75,206,650	61,056,084
繰越金	0	11,956,677
合計	75,206,650	73,012,761

平成16年度　収入予算書（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

（単位：円）

科目	平成16年度予算	平成15年度予算	増減
1. 終身会費	58,000,000	60,000,000	▲2,000,000
新入生会員			
平成16年度入学者（含　大学院生・編入学生）	55,650,000	56,700,000	▲1,050,000
未納会員（在学生）			
平成15年度以前入学者（含　大学院生）	2,350,000	3,300,000	▲950,000
2. 年次協賛金	3,201,450	3,006,650	194,800
3. 預金受取利息	0	0	0
普通預金受取利息	0	0	0
定期預金受取利息	0	0	0
4. 寄付金	0	0	0
5. 雑収入	1,000,000	1,200,000	▲200,000
6. 前年度繰越金	9,500,000	11,000,000	▲1,500,000
合計	71,701,450	75,206,650	▲3,505,200

平成15年度　事業報告書

事業区分	計画概要
本部会議	（1）理事会　8回　（2）代議員会　3回 （3）会計監査　2回 （4）正副会長・委員長会　2回 （5）各種委員会 ①　総務委員会　2回 ②　財務委員会　4回 ③　広報委員会　6回 ④　組織検討委員会　6回 ⑤　会館建設委員会　1回 ⑥　予算策定会議　2回 ⑦　会長選考委員会　2回
会員会議	（1）定期総会（総会・懇親会）5月24日 リーガロイヤルNCB（大阪）参加者170名 （2）支部長懇談会　5月25日 リーガロイヤルホテル　参加者40名
支部振興	（1）総会開催支部　35支部 （2）支部活動に関する助成（研修助成・支部交付金） （3）新入会員名簿・地区別会員名簿の配布・支部会員住所ラベルの配布 （4）立正大学同窓会特別企画『秋の講演会』開催（講師：竹内誠氏・塚本三郎氏）
学生ならびに学内団体助成	（1）学生文化団体、体育団体、研究会等課外活動団体97団体への助成 （2）星霜祭（熊谷校舎）、橘花祭（大崎校舎）、体育祭、学位取得祝賀パーティーへの助成
会員ならびに学生等への福利厚生	（1）卒業生に対して記念品を贈呈（卒業証書ホルダー・修了証書ホルダー、新入会員名簿） （2）入学式、就職、受験時のご案内等 （3）会員への慶弔
広報紙発行	（1）同窓会だより『たちばな』の発行 4月1日　学園新聞との共同発行　59,600部 7月1日　学園新聞との共同発行　61,700部 10月1日　学園新聞との共同発行　61,560部 1月1日　学園新聞との共同発行　61,400部 3月20日　61,400部 （2）ホームページによる支部活動、本部事業の開催案内及び活動報告の掲載
会員情報・名簿整理	（1）住所不明者のリスト作成、住所照会調査開始 （2）会員の住所訂正等の管理業務、会員名簿台帳の保管と管理
組織強化	（1）未活動支部の掘り起こしと活性化
その他	（1）大学卒業生への就職斡旋活動に協力 （2）立正大学学園振興へ寄与する （3）本会と学園・大学執行部との懇談会の開催

平成16年度　事業計画

事業区分	計画概要
本部会議	（1）理事会　年5回以上　（5）各種委員会　随時 （2）代議員会　年1回以上　ア．総務委員会　〃　エ．組織検討委員会　随時 （3）会計監査　年2回以上　イ．財務委員会　〃　オ．会館建設委員会　〃 （4）正副会長・委員長会　随時　ウ．広報委員会　〃
会員会議	（1）定期総会（総会・懇親会）5月29日（土）（千葉県　幕張メッセ・幕張プリンスホテル） （2）支部長懇談会　5月30日（日）（幕張プリンスホテル） （3）飯高檀林ツアー　5月30日（日）
支部振興と会員相互の交流	（1）支部総会や支部の会員研修会に対して助成する （2）本部と提携して公開講座を企画し、会員相互の協力活動を強化する （3）新規卒業生の情報を支部に連絡する
学生ならびに学内団体助成	（1）学生文化団体、体育団体、研究会、星霜祭、橘花祭、体育祭等へ助成する （2）卒業生に対して記念品を贈呈する
会員ならびに学生等への福利厚生	（1）会員への慶弔 （2）学生への助成
広報紙発行	（1）同窓会広報紙は、「立正大学学園新聞」共同発行を年4回発刊し、独自発行を会報「たちばな」として年1回発刊する （2）支部の広報担当委員を通して支部の情報を照会して頂き支部の理解を深める （3）ホームページ等による会員相互の情報交換環境を充実する
会員情報・名簿整理	（1）会員システムの管理および整備をする （2）正誤表の作成及び訂正と名簿の整備を行う
組織強化	（1）代議員制による組織強化と支部状況の把握、充実を行う （2）各種委員会の充実と責任体制の強化を行う
その他	（1）大学卒業生への就職斡旋活動に協力する （2）学生募集等へ協力する （3）立正大学学園振興へ寄与する （4）本会と学園・大学との協調体制を確立する （5）本会と学園・大学執行部との懇談等を開催し連携を図る

立正大学橘父兄会

橘父兄会創立40周年

大学と連携とって

会長　吉田　勝敏

三伏のみぎり、ご父母の皆様におかれましては、お子様が新しい環境に慣れ、ほっと落ち着かれている頃かと思います。

立正大学橘父兄会は、今年で設立40周年を迎えました。東京オリンピックの年である昭和39年、立正大学会議室において結成総会が開かれ、満場一致の賛同を得て会が成立。現在は交通事情も経済環境も著しく変わってきてはいますが、ひたむきな学生の為を思う純粋な父兄会結成の精神は、今も変わらず受け継がれています。

全国各地での父兄懇談会は、昭和41年から続いており、遠隔地のご父母には特に喜ばれたそうです。

さて、今年も年に一度の定期総会が5月23日に開催され、過年度事業報告・決算報告、本年度事業計画・予算などを審議いたしました。

また、学生に対しましても、学術・文化・体育・ボランティアなどの慈善行為などに奨励賞の表彰を行いました。

次に、前述いたしました父兄会の主要事業である父兄懇談会を、全国15カ所にて開催。大学の先生方が出向され、各地域のご父母の皆様と面接をし、お子様の成績をはじめ、学生生活の現状、諸問題を直接ご指導いただいております。

そして、毎年11月には学園祭に合わせ「父母のための就職講座」を開催しています。この不況の中、厳しい就職活動を、父母の立場からなんとか支えることが出来ないかという皆様からの願いのもとに開催され、就職活動の心得をはじめ、変わりつつある企業が求める人材などの諸問題を専門の先生をお迎えし、講演して頂きます。

その後、大学のキャリアサポートセンターの先生に、公務員・一般企業就職などに対応すべく、よりよい活動が出来るようご指導を頂きます。

本年度より新しい学長先生を迎え、新体制となった大学と連携をとって父兄会を盛り上げていきたいと思いますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

定期総会で橘父兄会奨励賞を受賞した学生たちと
（手前左から）吉田会長、髙村学長、渡邊理事長

平成16年度　父兄懇談会開催計画一覧

期日	開催地	案内地域	会場・所在地
6月20日(日)	熊谷会場	埼玉県　長野県 千葉県　新潟県 茨城県 栃木県 群馬県	立正大学熊谷校舎9号館 〒360-0161　埼玉県熊谷市万吉1700 ☎0485-36-6010 （問合せ先）橘父兄会事務局 ☎03-3493-6535
7月3日(土)	八戸会場	青森県　岩手県 宮城県	よねくらホテル 〒031-0022　青森県八戸市糖塚字蟹沢7-1 ☎0178-50-4652
7月4日(日)	横手会場	秋田県　岩手県 山形県	横手セントラルホテル 〒013-0035　秋田県横手市平和町9-10 ☎0182-33-1551
7月11日(日)	甲府会場	山梨県　長野県 静岡県	ロイヤルガーデンホテル 〒400-0858　山梨県甲府市相生1-3-17 ☎0552-31-2411
8月7日(土)	高松会場	香川県　愛媛県 徳島県　高知県 岡山県	高松東急イン 〒760-0024　香川県高松市兵庫町9-9 ☎087-821-0109
8月8日(日)	広島会場	広島県　岡山県 山口県　島根県 鳥取県	アークホテル広島 〒732-0806　広島県広島市南区西荒神町1-45 ☎082-263-6363
8月28日(土)	宇都宮会場	栃木県　福島県 茨城県	ホテルニューイタヤ 〒320-0811　栃木県宇都宮市大通り2-4-6 ☎028-635-5511
8月29日(日)	仙台会場	宮城県　福島県 岩手県	三井アーバンホテル仙台 〒980-0014　宮城県仙台市青葉区本町2-18-11 ☎022-265-3131
9月4日(土)	大阪会場	大阪府　兵庫県 京都府　滋賀県 奈良県　和歌山県	ホテルサンルート梅田 〒531-0072　大阪府大阪市北区豊崎3-9-1 ☎06-6373-1111
9月5日(日)	名古屋会場	愛知県　静岡県 岐阜県　三重県 滋賀県	KKRホテル名古屋 〒460-0001　愛知県名古屋市中区三の丸1-5-1 ☎052-201-3326
9月18日(土)	新潟会場	新潟県　長野県 山形県　富山県 群馬県	新潟東急イン 〒950-0901　新潟県新潟市弁天1-2-4 ☎025-243-0109
9月19日(日)	金沢会場	石川県　富山県 福井県	金沢都ホテル 〒920-0852　石川県金沢市此花町6-10 ☎076-261-2111
10月3日(日)	東京会場	全都道府県	立正大学大崎校舎石橋湛山記念講堂 〒141-8602　東京都品川区大崎4-2-16 ☎03-3493-6535
10月16日(土)	鹿児島会場	鹿児島県 宮崎県　沖縄県	ステーションホテルニューカゴシマ 〒890-0053　鹿児島県鹿児島市中央町6-5 ☎099-253-5353
10月17日(日)	熊本会場	熊本県　大分県 福岡県　佐賀県 長崎県	ニュースカイホテル 〒860-0034　熊本県熊本市東阿弥陀寺町2 ☎096-354-2111

立正大学学園のシンボル樹
「橘」を全調査

本学園内植樹の8本
日本原種と異なる

周知の通り、立正大学学園のシンボル樹といえば、橘父兄会の呼称の由縁ともなっている「橘」である。

この「橘」が、本学園の象徴的な花樹として愛されてきた背景には、鎌倉時代の仏教者であり、本学園の「建学の精神」の思想的淵源ともなっている「三大誓願」を表明した、日蓮聖人と無関係ではない。

本学園の「橘」は、日蓮聖人の出自とされる貫名家の家紋が「井桁（井筒）に橘」であったと伝えられることに由来するのである。

贈られた橘の原種

ところで、現在、本学園には、合計8本の橘と思われる樹木が存在する。これらは、旧校舎の建て替えの際に、一時、中庭の噴水広場に集められていたが、平成4年の第Ⅳ期工事の竣工とともに学内各所に移植されたもの、あるいはその後、新たに求めて植樹されたものなどである。

本年2月、これら橘と思われる樹木について専門家の調査・鑑定を依頼した。

調査にあたったのは、土方技術士・樹木医事務所所長の土方智（ひじかたさとる）氏と、神奈川県農業総合研究所企画調整部・経営情報部部長の真子正史（まなご　まさし・農学博士）氏である。

両氏からは、漢字の「橘（キツ）」は柑橘系樹木の総称で、日本原生の「タチバナ」とは種類が異なること、日本原生の「タチバナ」は国内でも数が稀少であること、柑橘系樹木は他種の柑橘系樹木と配合しやすい性質があり原種保存が非常に困難なことなど、興味深い御教示を賜った。

調査の結果、本学園に植樹されている橘は、いずれもが日本原生の「タチバナ」の原種とは異なるものであることが指摘された。

すなわち、**【図参照】**①②は有棘紀州蜜柑（ミカン）、③は枳（カラタチ）、④は未詳（雑種共生か）、⑤は相模柑子系の柑子蜜柑（コウジミカン）、⑥も柑子蜜柑、⑦⑧は金柑（キンカン）の一種で四季橘（カラマンディイン）という種であることが判明したのである。

これらの中では、比較的原種に近いと推測されたのが⑥であるが、棘があり、実が大きい点が、日本産「タチバナ」の原種とは異なるとのことであった。

なお、かつて本学園にはこのほかにも橘が存在し、一時、中庭の噴水広場に移植されたもののうち、ひとつがそれであったことが知られている。

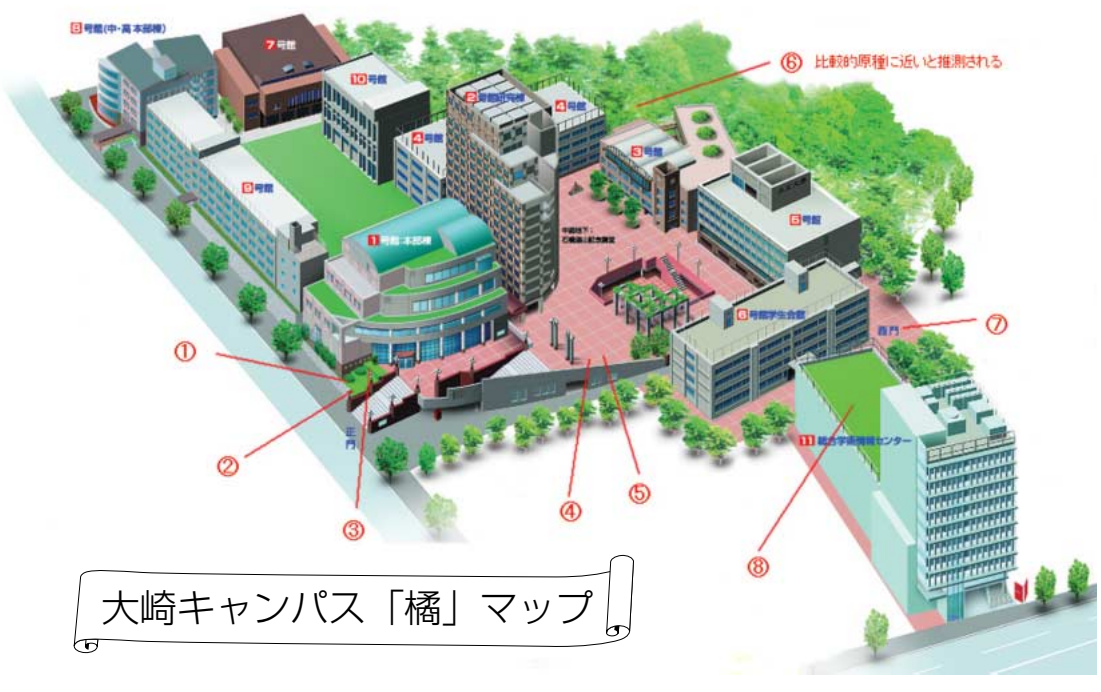
今回、写真（『フォーラム』1995年春号表紙）を両氏にお見せしたところ、原種に間違いないとの指摘であった。

しかし、残念なことに、この写真の「タチバナ」は、その後、枯れたため廃棄されてしまったという。

このたび幸いにも、両氏から本学園に原種の「タチバナ」の苗木一鉢の寄贈を受けることができた。

本学園のシンボルとして、これら「橘」の樹々を今後も大切に守っていきたいと思う。

（仏教学部特任講師　髙森　大乗）



大崎キャンパス「橘」マップ

卒業生の新刊

天堂晋助著
『陳勝・呉広の反乱』
河出書房新社・1500円

紀元前210年、秦の始皇帝死後、農民反乱を立ち上げた若者の夢と情熱を描く歴史物語。

第2回歴史群像賞で奨励賞を受賞した天堂晋助さん（平成6年経済学部卒）は歴史小説家として活躍中である。

天堂さんには昨年、経済学部学生主催のゼミナール協議会の講師に招かれるなど、母校の発展にも協力いただいている。

学生記者から届いたメール ②

国境を越えて

HERE'S THE NOBLE SPIRITUALITY

夜間主コース
文学部哲学科4年
内藤　大輔

1年間休学して数々の国境を越えた内藤君。彼の、社会人では見ることのできない〝学生の目〟で体験したレポートだ。

戦時収容所そのままの博物館
戦争を肌で感じた

プノンペンはカンボジアの首都である。さてカンボジアと言えば、ほんの数年前まで、市民は戦争の恐怖下で暮らしていた。

僕がプノンペンにいたのはビザの関係で5日程度だったが、カンボジアに来たのだから、戦争関係の博物館に行こうと決めていた。

この「カンボジアに来たのだから」というミーハー的な思考で行った博物館から、僕は思わぬ衝撃を受けた。

内戦の事を知らないで「こんな歴史的大虐殺があったのか」と驚いたのではなく、カンボジアにいる間、内戦の事をほとんど忘れていたのである。

働き盛りの男が極端に少ないとか、空き瓶拾いのボロボロの回収袋を片手に町を徘徊する子供の集団を見た時は、「これも内戦のしわ寄せだ」と理解しているつもりだった。

しかし、カンボジアには戦争の傷痕を意識させないほど、若く力強いパワーが充満していた。むしろ僕は彼らのビー玉のような目が、「ニホンジン＝カネ」と露骨にキラリと光るたびに疲労困憊した。

僕の行った博物館は当時の収容所をそのまま博物館にしたもので、館内はできるだけ当時の状態を保っていた。

そこらじゅうの床には血痕らしきシミもあり、空気は重く、かび臭かった。

館内に入った瞬間から、僕の五感はフル稼働でこの内戦の恐怖と無意味さを感じ取った。

拷問室には、骨組みだけのベッドがぽつんと部屋の真ん中に置いてあり、壁には発見直後の写真が貼ってある。

プノンペンで会った青年

子供たちの笑顔は未来のエネルギーだ

博物館の一部になっている独房

写真には拷問途中に手錠をかけられたまま殺され、なぜか真っ黒になった死体が写っていた。

写真にあるベッドが展示されていて、よく見ると手錠や、便器として使われていた薬きょう入れも寂しげに置いてあった。

ここはもともと学校だった建物を、極力お金を使わず、かつ急いで収容所にしたものだ。学校の広い敷地の一角にあるベッドしかないこの空間は、耳の奥が痛くなるほど静まり返っていた。

当時収容されていた人々（ほぼ殺されてしまったが）の顔写真が壁一面に貼ってある部屋では、写真の質、彼らの顔つきを見てすぐ、遠い昔の話ではないことに気づく。旅行中にすれ違ったり、道を尋ねたカンボジア人と何も変わらない人々に見えた。

その他、拷問の絵や、使われた拷問の器具などが置いてあったが、すべてがリアルでひどく疲れた。「戦争なんていいものではない」と世の人に「見せる」ことによって教える博物館にとって、僕はきっと模範的な人間であっただろう。

重たくなった気持ちを引きずったまま、繁華街まで歩くことにした。学校帰りの女子大生がドーナッツをほお張りながら談笑したり、恋人同士がウインドーショッピングを楽しんでいた。それは特別でもないアジアの光景だった。

それでも、戦争を肌で感じてすぐの僕は、好きな話をし、好きな方向に歩き、好きな本を読むという普通である風景が、なんだか喜ぶべき平和の象徴に感じられた。

授業に参加するUSMの学生たち

Campus Voice

留学生からの一言

「ヨン様」人気とても嬉しい

文学研究科修士1年　安（アン）　貞愛（ジョンエ）

韓国の人気ドラマ「冬のソナタ」に出演した俳優のペ・ヨンジュンがこのほど来日した。「ヨン様」と呼ばれて日本ですごい反響を起こしている。韓国文化に興味を持っている日本人に出会うと、ヨン様の話で盛り上がり、韓国の留学生である私は嬉しく思う。

私の日本留学は、昨年の研究生から始まって今年の修士1年で2年目になる。

日本に来たばかりの頃を振り返ってみると、その時経験したハプニングは笑える。留学生なら共感できるかもしれないので、私が経験した出来事を紹介する。

来日当初、私は親戚の家から通学していた。家が東京の南千住だったので、上野までバスで来て電車に乗り換えなければならなかった。

ある日、教えられたバス停らしい所でバスが来るのを待っていた。

このバス停は時刻表がないな…と思いながら、電柱に貼ってあるポスターを見たり、周辺をウロウロとしていた。

バスが見え、私はそこに立ったまま、やって来るバスの運転手さんの顔を嬉しく見つめていた。

ところが、なんとバスは私の前を通り過ぎて、5メートル先に一瞬止まって行ってしまった。わずか5メートル離れている所でちゃんと待っていたのに…。

降りる人がいなかったせいかと思いもしてみたが、とにかく戸惑った。

韓国では、バス停の近くに乗客らしき人が見えたらバスは止まる。また、待っている人は「ここで待っているよ」という無言のメッセージを運転手さんに伝えようと見つめるのだ。

当時は、日本のバスは渋滞も関係なく定刻に来たが、それにひきかえ人間味がないな…と思った。現在はバスに乗ることもほとんどなく、電車の人込みにも慣れてしまったが…。

韓国との違いに戸惑う
停留所から離れていたら
バスが行っちゃった！

協定校・米USMの4学生
日本文化研修で来学

協定大学であるアメリカのサザンメイン大学（USM）の学生4人が、5月20日から6月9日まで日本文化研修のために滞在した。

USM留学生をサポートするFellow students（注）との交流や大崎・熊谷キャンパスでの日本文化の講義、ホームステイ、品川区の中学校訪問、京都旅行等を体験して日本文化に親しんだ。

（注）Fellow students

USMの学生が日本滞在中に、研究、調査を手助けする立正生。課外授業等に同行するほか、本学を代表して交流も行い、友好を深める。毎年秋に英会話に堪能な立正生を募集する。

シリーズ　がんばれ！強化クラブ

しぶとい野球で1部昇格を

「秋への布石」着々

立正の守護神投手（左から）山路了司君、鯨井宣孝君、中里和也君

◇硬式野球部

硬式野球部はこの春7勝7敗の4位に終わった。しかし1点差が4試合。つねに接戦にもつれ込んでいた立正だった。優勝した専大に対しては1勝2敗1分、最終戦は0対1で惜しくも勝点を逃していた。

「相手に打たれるとベンチは静かになりがち、逆にそこで盛り上げていきたい」（中里和也投手）

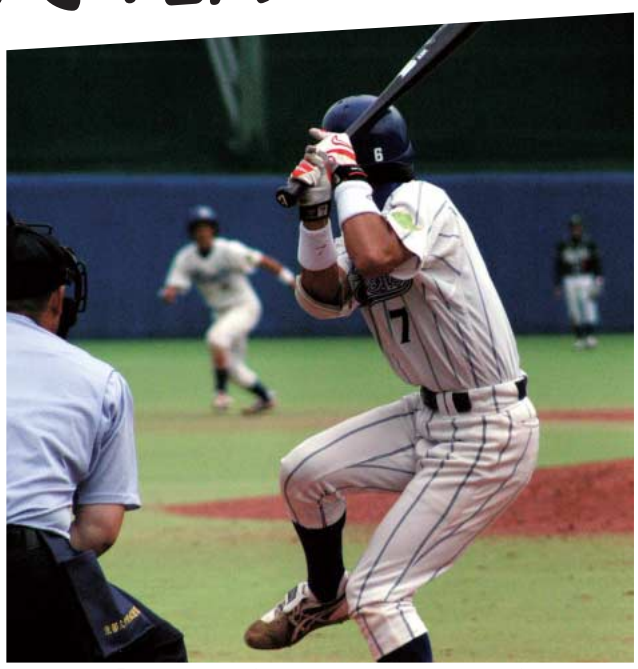
今季の立正にはなんといっても抜群の投手力がある。闘争心旺盛に投げ込む鯨井宣孝（東農大三）、クレバーな山路了司（尾道商）、長身右腕の中里和也（葛生）と小林永樹（朝霞）、新人では高田一仁（成田）に快速左腕の丸山泰裕（松商学園）、重要な中継ぎに4年の栗山辰徳（日大三）と技巧派左腕御手洗隆元（大分雄城台）などとコマは豊富。しかも守備は堅く、攻撃に機動力がある。また主将で捕手、チームの要として活躍をみせる足立貴耶（春日部共栄）の存在も大きい。

「あとはチャンスでのバッティング」（鯨井投手）。

その打撃力が課題。僅差の試合をものにするための1発が必要だ。

「体力強化と振り込みを充実させ好打者をつくり上げたい」と伊藤監督。

夏合宿は8月初頭から10日間北海道帯広市で行う。この東都大学リーグ2部はまさしく戦国。専大は昨秋2部最下位であった。おのずとチャンスはやってくる。強靭な投手陣を背景に少得点差で勝利をもぎ取るしぶとさの野球で、秋は一気に1部昇格といきたい。



「チャンスに1本」好打者育成が1部昇格へのカギ

勝利の女神ルースターズ

◇ラグビー部

小柄なる闘将堀越監督ひきいるラグビー部は今季最大の力を発揮する。これまで3度のチャレンジはともに関東大学リーグ戦グループ2部3位と入替戦に進めず辛酸をなめた。その悔しさを秋にぶつける。

それはFWが闇雲に押す、はたまた一途に展開というような固定のパターンではなく『バランス・ラグビー』すなわち残り時間を考えたフレキシブルな攻め、これが立正ラグビーの真髄となってくる。いわば欧州スタイルの頭脳プレイが基調をなし、ここにトンガ出身の2選手が絶妙なまでに加わってリードする。

今年の夏合宿は菅平高原で8月12日から約2週間の日程。春は早大、法大、筑波大、山梨学院大、流経大などとオープン戦を16試合組み、素晴らしい手応えを得た。いよいよ念願の1部昇格へ向けて突っ走る。

◇サッカー部

今季から新就任の松本監督（ジェフ市原）のもと立て直しのシーズンを迎えたサッカー部は、A、Bチームに色分けして効率的な強化を開始した。これはトップチームとサテライトの共存だ。もともとカウンターからのスピードあふれる攻撃が特色の立正。春には東京都リーグ代表として関東大会出場を果たしている。

さあ、秋本番はぜひ神宮や熊谷県営などの試合会場で声をからしたい。そこで大声で校歌を奏でよう。

文・写真　岩瀬　孝文＝スポーツジャーナリスト（立正大アメフト部監督）

Campus Voice

所属リーグホームページ

東都大学野球連盟　http://www.tohto-bbl.com/
関東ラグビーフットボール協会　http://www.rugby.or.jp/
東京都大学サッカー連盟　http://www.interq.or.jp/soccer/tokyo/

きらり　課外活動

籠球部女子部

和気あいあいでパワー発揮

体育会籠球部女子部は、部員9人と少ないながらも一生懸命、パワフルに熊谷校舎で活動しています。

体育会というと、皆さんが想像されるようなタテ社会で、規律が厳しいイメージがあると思いますが、良くも悪くもタテ社会なんかそっちのけで、学年に関係なく和気あいあいとしているのが籠球部女子部です。

そして人数が少ないことは気にせず、9人が揃えば、どんな部にも負けないチームワークを発揮するのが、私たちです。

4年生は私ひとりで寂しいものがありますが、頼もしくてかわいい後輩に囲まれ、下からの強いチカラに支えられ活動しています。

週に3回から4回練習（月・水・土）を熊谷校舎で行っています。大会は年に5回ほどあり、秋の関東女子学生リーグ大会がメインに盛り上がる大会です。私たちもその大会に照準を合わせて頑張っています。

昨年度は、國學院大學との合同練習、1週間に及ぶ佐渡への夏合宿と、他大学や浅見監督、塩山コーチをはじめとするスタッフ、周りのたくさんの方の応援と力を借りて精力的に活動することができました。

辛く苦しいものがありましたが、その結果、関東女子学生リーグ大会で4部リーグ優勝、3部リーグへと昇格出来ました。

大学からも課外活動顕彰式で奨励賞をいただきました。自分たちの活動が結果を出し、認められた1年になり、嬉しいです。

今年はリーグも昇格し厳しい戦いになりますが、さらなる上位リーグを目指して活動を始めています。

昨年以上の努力が必要でプレッシャーもありますが、持ち前のチームワークで頑張ります。

（社会福祉学部　大間有希子）

部室拝見

音楽と笑顔があふれて

MLC（Music Laboratory Club）

◆**歴史**　夜間で唯一のロック系音楽サークル。設立は1975年だが、その前身は「ちろりん村」という名のサークル

◆**拝見録**　部室は楽器の山。いつ訪れても、部屋に入りきれないほどの部員たちの笑顔と音楽がある

◆**部室内で1番古いモノ**　ちろりん村ファイル

◆**入部する後輩へ**　音楽が好きならば、楽器が弾けなくても一から教えるので心配はない〔高橋飛勇雅部長（心理3年）〕

◆**今後の課題**　作曲大会の積極的な開催

㊧代々伝えられてきたファイルなど
㊤壁には先輩から贈られたメッセージが貼られている

快調！学生行事

玉入れやウルトラクイズ
楽しむ体育祭

盛り上がる「筋肉番付」

ガンバ！　ダルマ落とし

何点取れるかな？

熊谷キャンパス

第38回体育祭は5月23日に無事終了しました。例年にない雨天延期となってしまい、今年度のテーマ「栄光を手に」を「晴天を手に」へ変更しようかと思ったほどです。

体育祭の主な競技は、陸上競技場ではドッジボール・ソフトボール・障害物リレー・玉入れ・筋肉番付・ウルトラクイズ。体育館ではソフトバレー・30N3です。皆が気軽に楽しめる競技を企画しました。

恒例のソフトボールは、予選を勝ち抜いた3チームのみが、当日の体育祭で試合ができるルールを実施しています。今年は48チームが参加し、決勝まで勝ち抜いたのは、熊谷グロリアス、ふろんてぃあ、ちかん（地球環境科学部の略）の3チームで、白熱した試合が行われました。

4年ぶりに復活したウルトラクイズや、毎年大ハプニングが起こる教職員チームの出場もありました。参加した立正生が、各々の競技で栄光を手にすることができたと思います。

また、実行委員の試みとして、体育祭タオルから考え方を変えて体育祭Tシャツを作成するなど、内部より変革に挑みました。

私たち実行委員は、立正生が楽しんで参加できる競技や内容の改革など、終わりの無い課題を抱え取り組んでいます。

これからも良いものを目指して頑張っていきます。来年の体育祭も期待してください。

（体育祭実行委員会企画局長　加藤篤＝経営4年）

Campus Voice

学園祭実行委員長
大崎・関　正憲君
熊谷・高田裕太君

本年度の学園祭実行委員長が決定した。

大崎キャンパス開催の橘花祭実行委員長は関正憲君（文学部哲学科4年）、熊谷キャンパス開催の星霜祭実行委員長は高田裕太君（経営学部4年）の両君である。

2人は立正生全員で作り上げる学園祭のリーダーとして熱い握手を交わした。

健闘を誓う関君㊧と高田君

〔学園祭日程〕
大崎キャンパス　橘花祭
熊谷キャンパス　星霜祭
日程　11月5日～8日
（詳細は次号）

バスハイク　新入生同士仲良く

新企画のバーベキューで話が弾む新入生ら

バーベキューも

夜間主新入生歓迎実行委員会は、4月25日にバスハイクを行いました。

このバスハイクは毎年行っているもので、歴史も長く、30年以上続いている新入生歓迎実行委員会のメイン企画です。

今年は、神奈川県「こどもの国」でバーベキュー大会を開催しました。

バスハイクは夜間主の新入生が学部や学科を越えて交流を持つという考えに基づいて行われてきました。昨年までは熊谷キャンパスでのスポーツ大会でしたが、今年は新企画に挑戦し、バーベキュー大会となりました。共同作業をすることによって交流を深めることを狙ったからです。

また、例年ならばグループを決めてから出発していたのですが、今年は番号の書かれたクジを引いてもらい、同じ番号を持っている人を探してその人たちが同じグループというゲームを行いました。知らない人に話しかけるキッカケを作るためです。

大崎キャンパス

最初はぎこちなかったのですが、協力して炭火をおこし、調理し、食べながら「どこから来たの」「サークルはどうする」などと話し合っているうちに、自然に新入生同士が仲良くなっていきます。

バスハイクは、委員が新入生に企画の魅力を伝える積極的な宣伝をして参加者を集めています。

今年の委員の頑張りに感謝するとともに、来年は参加人数をもっと増やしたい、もっと夜間主の新入生同士仲良くなってほしいと願うばかりです。

（新入生歓迎実行委員長　谷中草太＝文・社4年）

夢を聞かせて…

仏教学部仏教学科4年
深村（ふかむら）　智崇（ともたか）さん　〈いて座〉
（グリークラブ所属）

★今、興味あること……歌うこと
★最近、印象に残ったこと…
熊谷キャンパス付近の荒川土手でサークルの仲間たちと開催した花見
★将来の夢…ヴォーカリスト
★学生のうちにやっておきたいこと…自分のバンドを結成すること

〝就活〟のススメ

「なりたい」から勉強した

学校法人誠恵学院誠恵高等学校
田中数将（文学部社会学科　平成16年3月卒業）

「教師になる」――私の大学生活はこの目標からスタートしました。大学4年間を振り返ってみると、私はこの目標を達成するためだけに突っ走ってきました。そして今、私はこの目標を実現できました。

私の採用試験の判定は、決して良いとは言えない成績でしたが、教員に採用されました。

私はいくつかの地元の私立学校に直接電話をして、自分を売り込んできました。もちろん、ほとんどが取り合ってくれませんでした。1校だけ私に学校訪問の機会を作っていただいたのをきっかけに、今回のような結果が舞い降りてきました。

ここで誤解をしないで頂きたいことは、私は決してやみくもに学校に電話をするという行動にでたわけではありません。ここに至るまで私は、教師になるために努力をしてきました。そして何よりも「教師になりたい」という強い気持ちがありました。

猛勉強を開始したのは3年からでした。毎週火曜日の夕方の約1時間半、キャリアサポートセンター主催で開かれた渋谷区教育委員会の小此木先生の勉強会に参加しました。

小此木先生は、教員採用試験の面接官も経験されており、面接、論文対策の他に、実践的な教師になるための姿勢を学びました。

また、教員採用試験対策集中講座などにも積極的に参加し、問題集を計画的にこなしていきました。このように、自信をつけ、悔いなくやるべきことをやった上で、先に述べたような行動にでたわけです。

何よりも、私が立正大学で4年間を過ごせたことが大きな意味を持っています。素晴らしい友人達に出会え、ゼミ長などを積極的にやることで、貴重な経験をしました。

また、立正ならではの仏教学の授業で、素直、反省、謙虚、奉仕、感謝といった日常の五心を持って一日一日を一生懸命に生きる大切さを学びました。

私はこれからも立正で得たものを失わずに、目標を持って、教師として向上していく覚悟です。

後輩のみなさん、まず立正の学生という自分に誇りを持ってください。そして自分自身の目標を持ってください。自分を信じ、その目標のために悔いのないよう努力しながら、一生懸命に生きていればきっと良い結果が出てくることでしょう。

キャンパスボイス　http://www.ris.ac.jp/guidance/ad/origin/cpvoice

立正大學學園新聞

編集／立正大学総務課新聞編集係　電話／03（3492）2681　URL／http://www.ris.ac.jp/

キャンパスボイス わいわい（^o^）がやがや（>_<）学生の声

いろんなことをやってみたい気はするけど、始めるきっかけが見つからない…、そう思っている人も多いはず。

長い夏休みが近づくこの季節、「やってみたい何か」をカタチにしてみませんか？

今回は、キャンパスライフの中で、好きなコトを実現した立正生を紹介します。

立正見聞

今回のテーマ

夢をカタチに

映画…踊り…DJ…〝自分探し〟に挑戦中

尾山　昌孝さん（文学部　3年）

【日本の個性を撮りたい】

小中学校は野球部、高校はサッカー部で県新人戦ベスト8、運動一筋の尾山さんだった。大学入学当時、今ひとつ夢中になれるものがなく夏休みに、テレビで見た黒澤明監督『影武者』で人生が一転した。

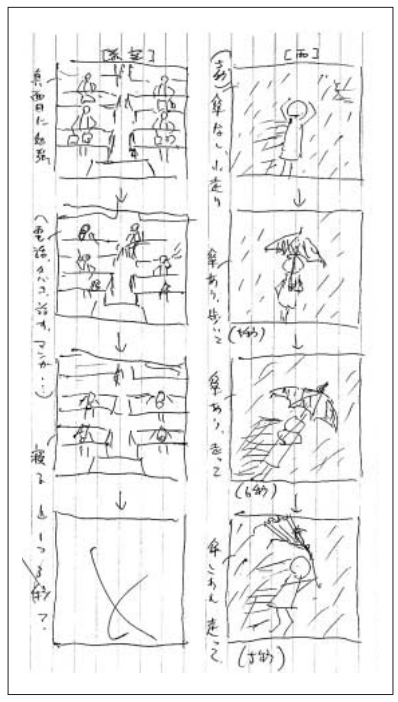
それまで映画を真剣に見たこともなかったが、翌日からビデオ屋へ通い黒澤映画に没頭する。「映画を撮りたい」と、夏休み明けに映画製作部へ入部した。

しかし、そこは廃部寸前で、作り方を教えてくれる先輩も不在だった。2年生で部長に抜擢されたのを機に、仲間たちと手探りで映画制作を始める。この春、新入生も多く入部し、部も活気づいた。

尊敬する黒澤監督の「若い時から多くの文学作品を読み、言葉や表現を学ぶことが大切」との名言を胸に授業も頑張っている。

「日本の個性を撮りたい。卒業後は映画現場に潜り込みます」

秘めた力を持つ尾山さんだ。



尾山さんが描いた絵コンテ

佐久間 太陽さん（文学部　3年）

【踊ることを続けたい】

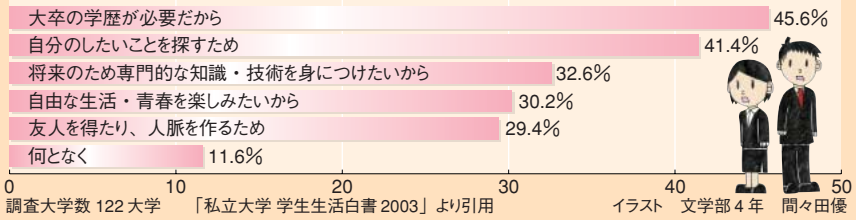
「ずっと、ヒップホップを踊りたかったんです」と真っすぐな目で静かに佐久間さんは語った。高校時代に些細なトラブルで学校中の窓ガラスを割って退学をしたり、イジメにあうクラスメイトを見て、『人が存在する理由』を求めて哲学科へ入学。憧れていたヒップホップダンスを始める。

「決してうまくないけれど、何よりも踊ることが好きで続けていきたいんです」

ヒップホップというと派手に思われがちだが、出会ったプロダンサーは皆、謙虚で常にコツコツと努力している世界。佐久間さんにとってダンスとは、地道に一歩ずつステップや技を食いつぶすプロセスがたまらないとのこと。

モデル協力
菅原　望（文学部2年）
〈星霜祭実行委員会所属〉

大学進学の目的



調査大学数 122 大学　「私立大学 学生生活白書 2003」より引用　イラスト　文学部４年　間々田優

古城戸（ふるきど） 晶（あきら）さん（文学部　4年）

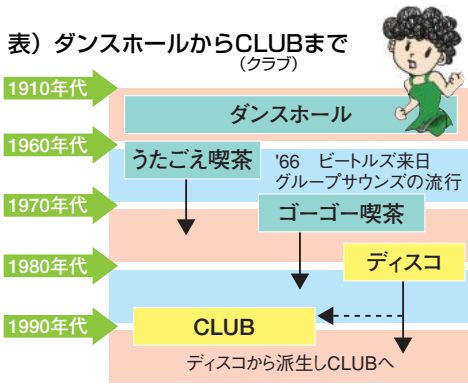
【皆の居場所を作りたい】

後輩は彼のことを「アキラさん」と呼ぶ。彼はCLUB（クラブ）（表参照）のDJをしている。高校までラグビー部に所属していた。上下関係が嫌でスポーツを楽しみたいと感じていたので、後輩に「先輩」と呼ばれるより「アキラさん」の方が親近感があっていいと言う。

CLUBとは音楽や踊りを楽しむ場所であり、その場の雰囲気に合わせた選曲をするのがDJの役目。

お酒を飲むと踊れなくなるし、値段も高いのでペットボトルの水を飲む人が多い。会社帰りのサラリーマンもフラリとひとりで来て踊って帰っていく…。

「CLUBに来る人は寂しがり屋が多い。皆の心地良い居場所を作りたい」と語る古城戸さんは社会科教諭を目指している。



「21世紀の裕次郎」徳重聡さん

TVドラマに今秋デビュー

在学中「21世紀の裕次郎を探せ！」のオーディションでグランプリを受賞した徳重聡さん（平成13年社会福祉学部卒）が、ついにドラマデビューする。

俳優石原裕次郎の生涯を描いた小説『弟』（石原慎太郎著）を原作にしたスペシャルドラマで徳重さんは、主役の裕次郎役で出演する。「この作品で裕次郎さんを演じられ、心から幸せです」と語る徳重さんの活躍に期待したい。

なお、『弟』はこの秋、5夜連続テレビ朝日系で放送される予定。

募集しています

学生記者、モデル、投稿原稿、悩みについて学生の皆さんの応募をお待ちしております。こちらにメールしてください。

E-mail　pln@ris.ac.jp

インタビュー

輝く人

平成16年度仏教学部卒
末永　真弓さん

身長177センチを生かし 昨秋からモデルに

美しいだけの女性はつまらない。その意味で彼女は十二分に魅力的だ。

今年仏教学部仏教学科を卒業した末永真弓さん。ピッとのびた背筋が印象的な彼女は、水泳で4年間連続関東大会出場を果たし、平成15年度課外活動顕彰で優秀賞を受賞した。「泳ぐことが好き」と言う水泳は4歳から始め、中・高校時代を通じ、ジュニアオリンピックや国体、全国大会（リレー3位）にも出場した。

満足とは言えない環境で結果が出せたのは、陰の努力あってのこと。「練習は学校が終わってから3時間、5千メートルぐらい泳ぎました」。その合間を縫ってバイトもしていたというから、おそるべき体力。

そんなエネルギッシュな彼女だが、自分の身長（177センチ）に大変なコンプレックスを持っていたとか。しかし、自分の体を生かした仕事をしたいと心機一転。昨年の10月から「MAYUMI」としてモデルデビュー。すでに携帯電話やヘアカラーのモデル、有名スポーツメーカーのショーにも出演している。

「仕事を始めたらコンプレックスなんて感じなくなった。今は胸を張って歩ける」

まさに我が道を歩きはじめた彼女の瞳からは確固たる信念が伝わってくる。

ところが、数々の仕事をこなしながらも、あくまで自然体を崩さない。（そこがまた彼女の魅力の一つでもある）「内面的にキレイになりたい」と語るのは大学で学んだ仏教美術の影響だろうか。

最後に、これから将来の進路を決める立正生へ彼女からのエールを。

「やりたい事はあきらめちゃダメ。積極的に好きな世界へ飛び込むのが大切」

美貌と人間性を兼ね備えた才女の今後の活躍が楽しみなのは、私だけではないはずだ。

学生記者
白鳥　博康
（文学部
文学科3年）